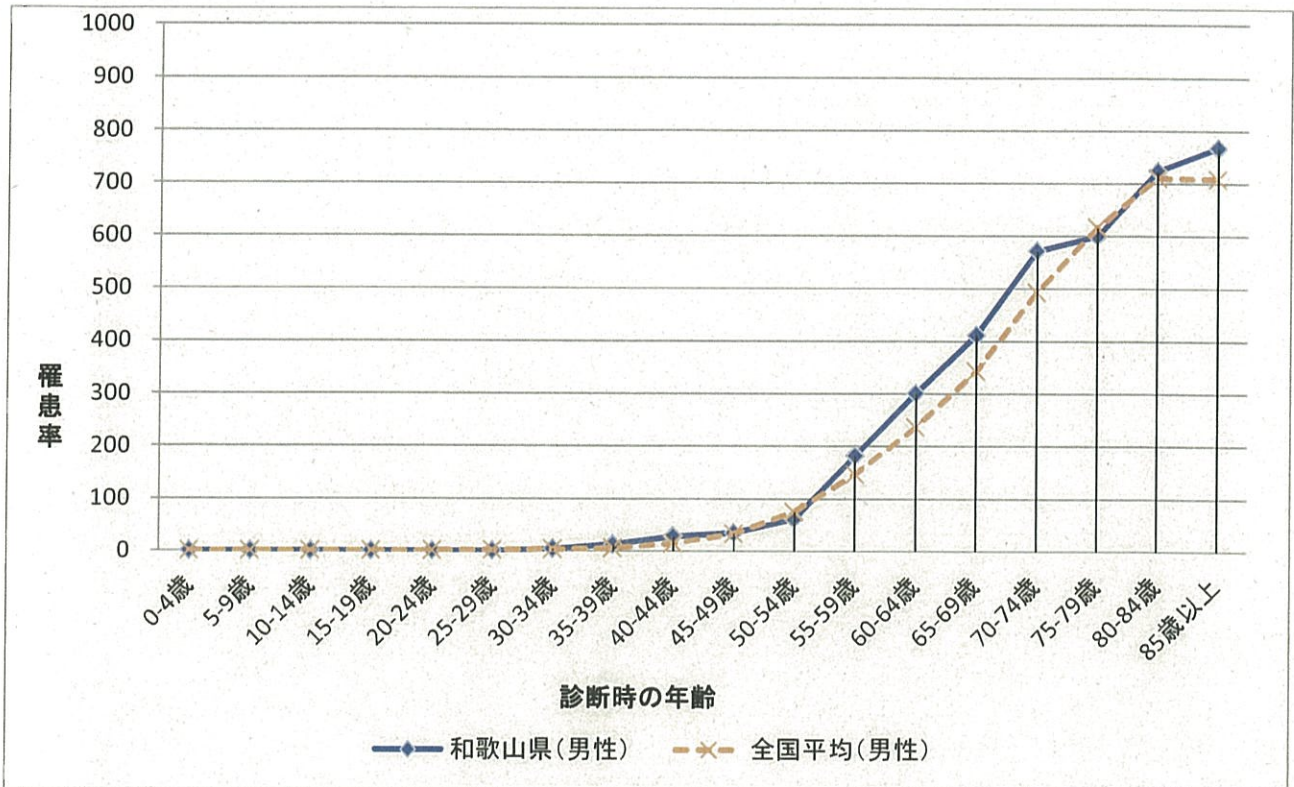


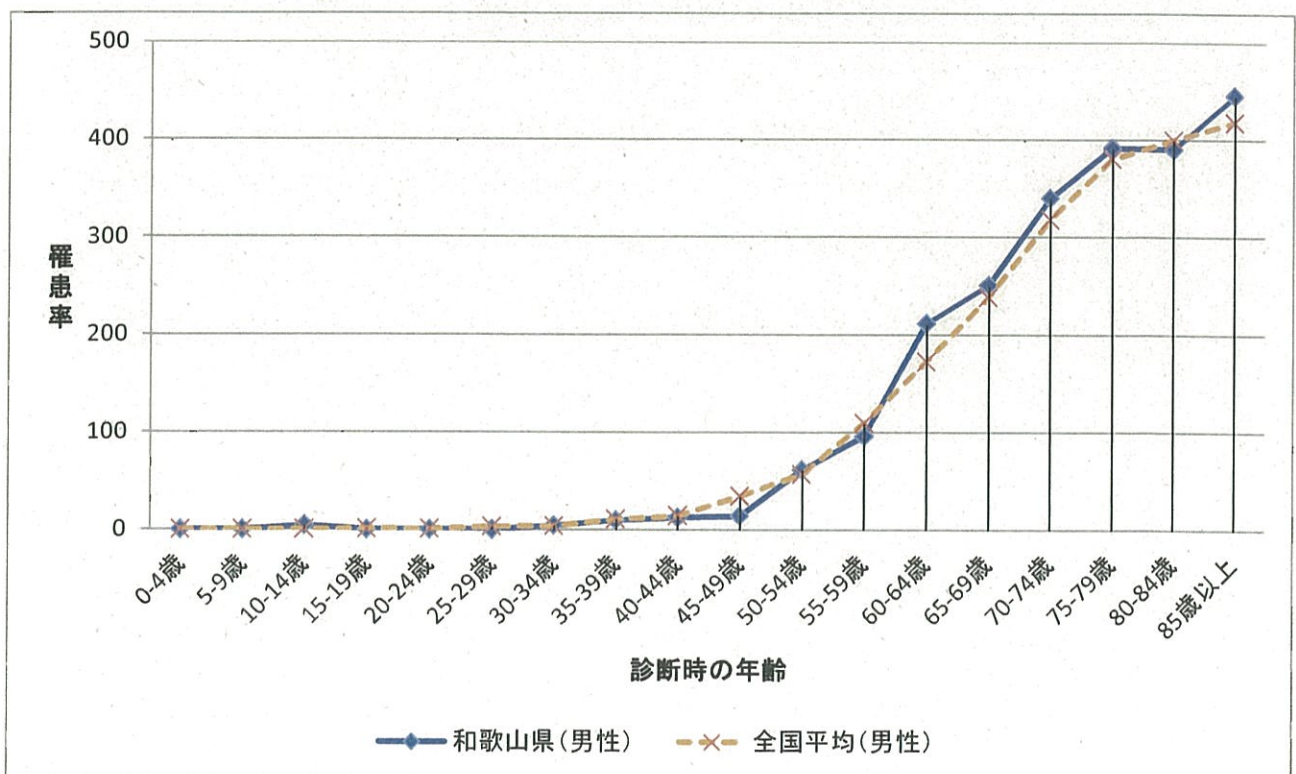
年齢階級別罹患率（人口 10 万対）；部位別、性別（主要部位）

（和歌山県と全国平均との比較）男性 ※和歌山県の数字は、標準集計表の表 3-A、3-B から作成
 ほぼ全ての部位の 60 歳以上の高齢層で、本県の罹患率が全国平均との比較で高い割合を示している。

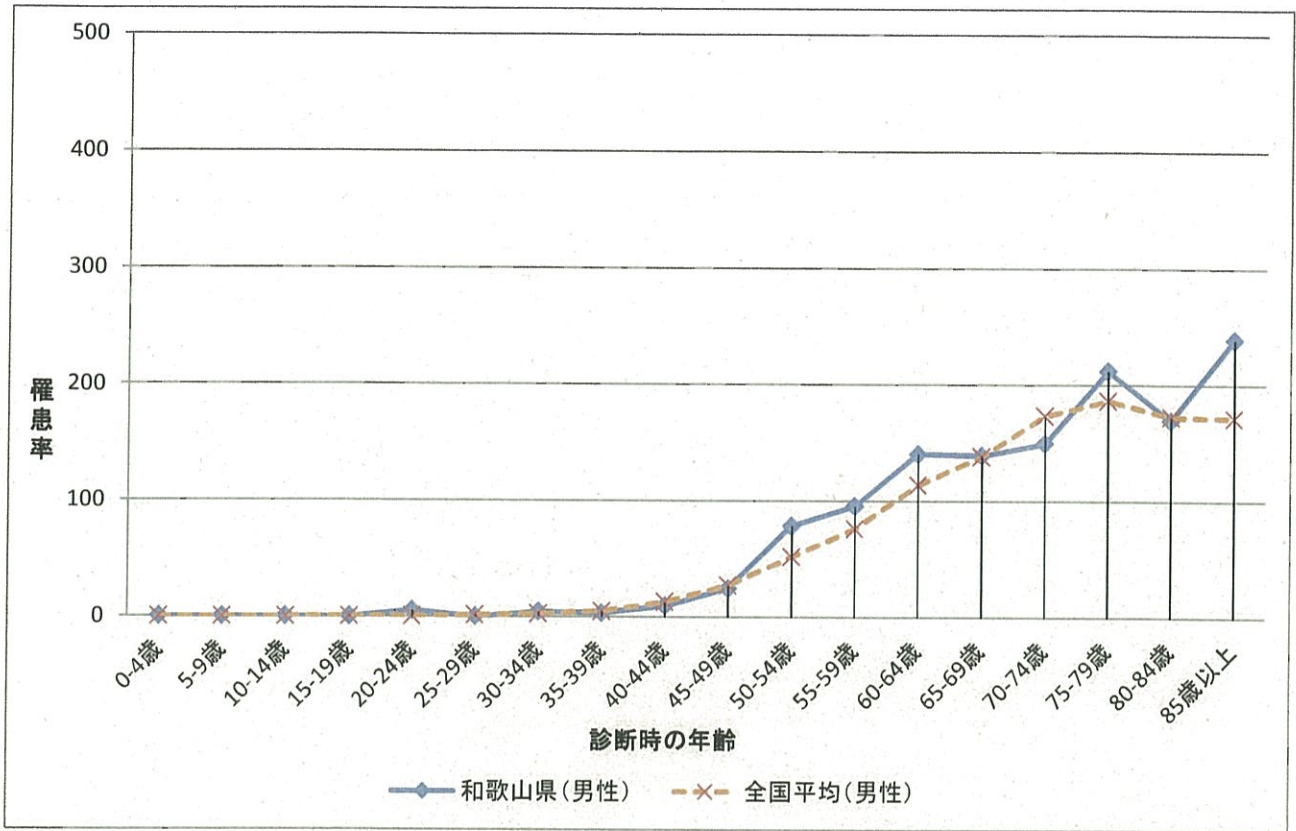
① 胃



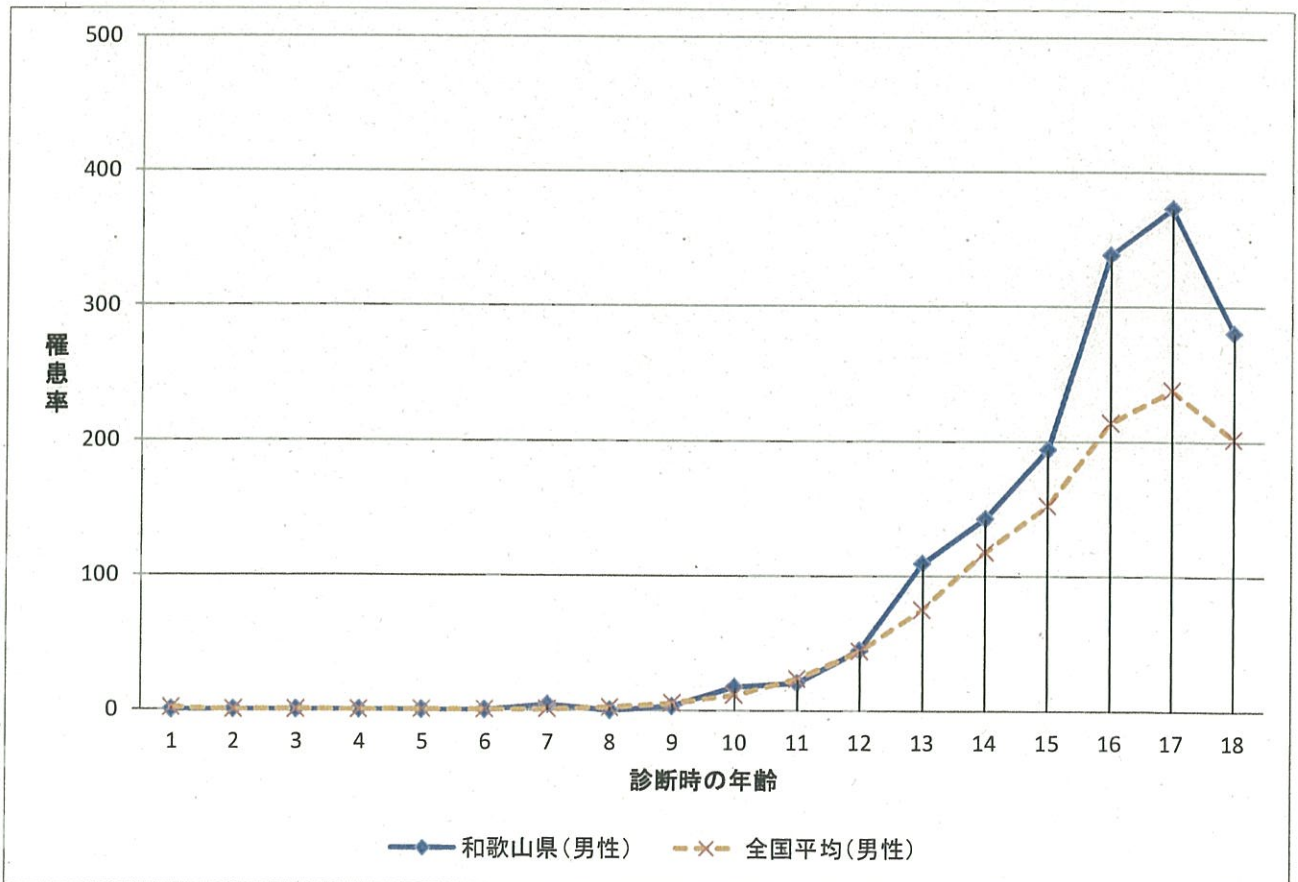
② 結腸



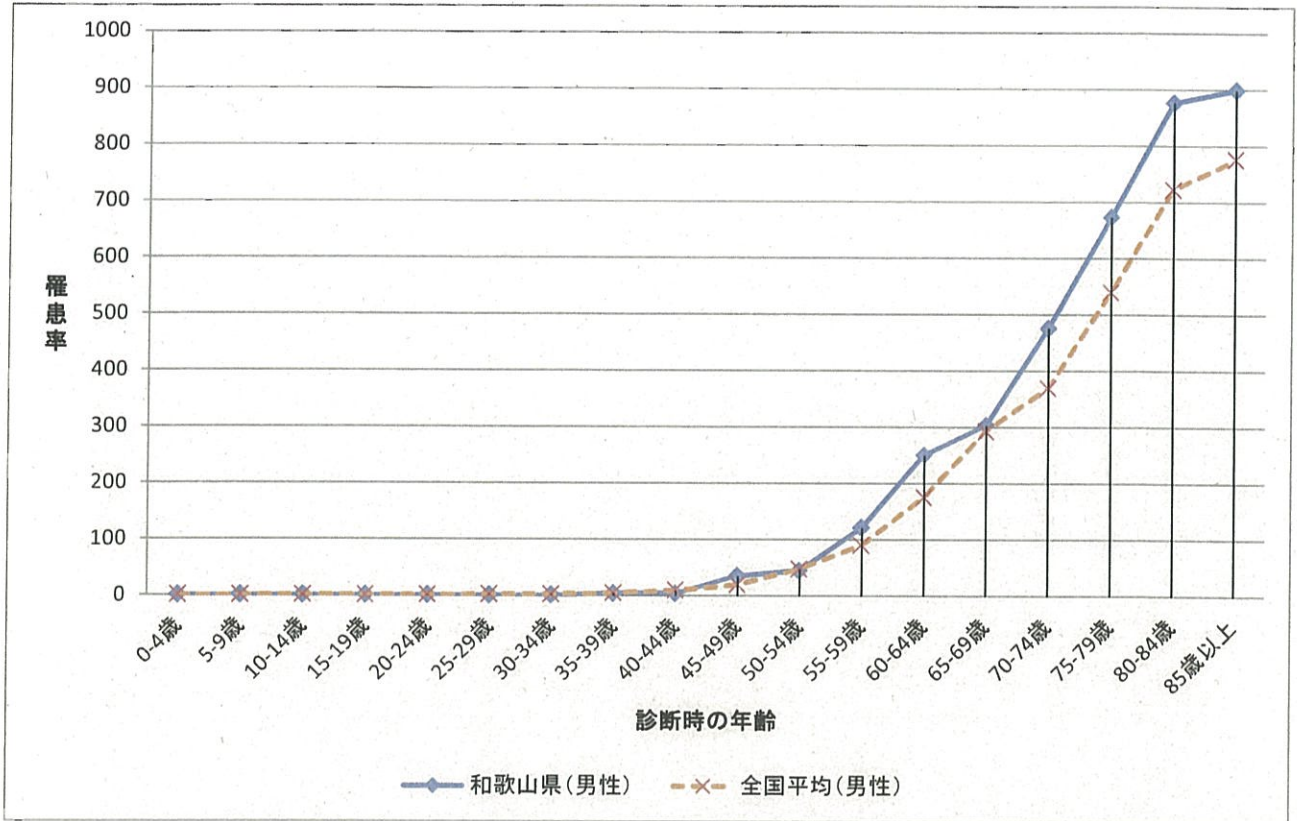
③ 直腸



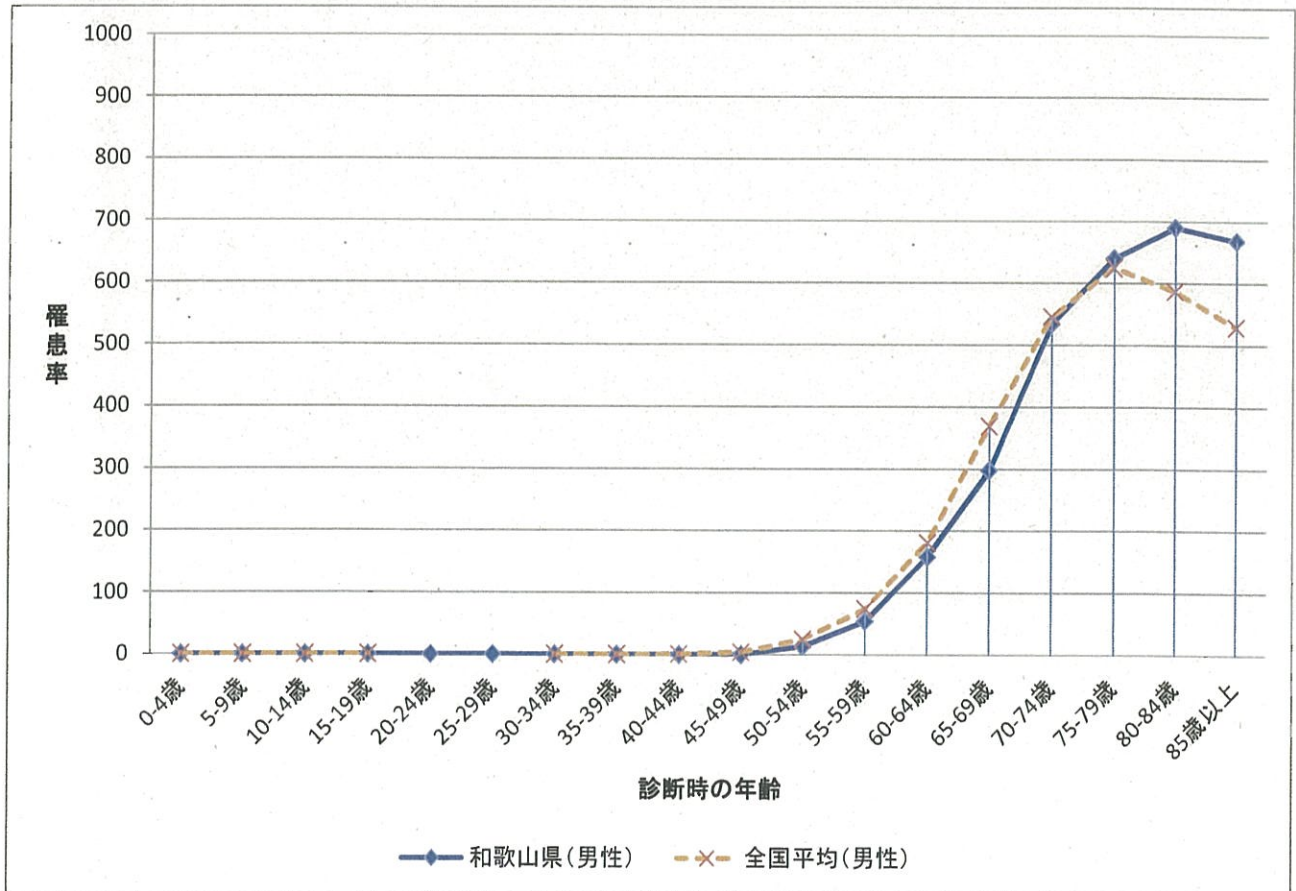
④ 肝および肝内胆管



⑤ 肺



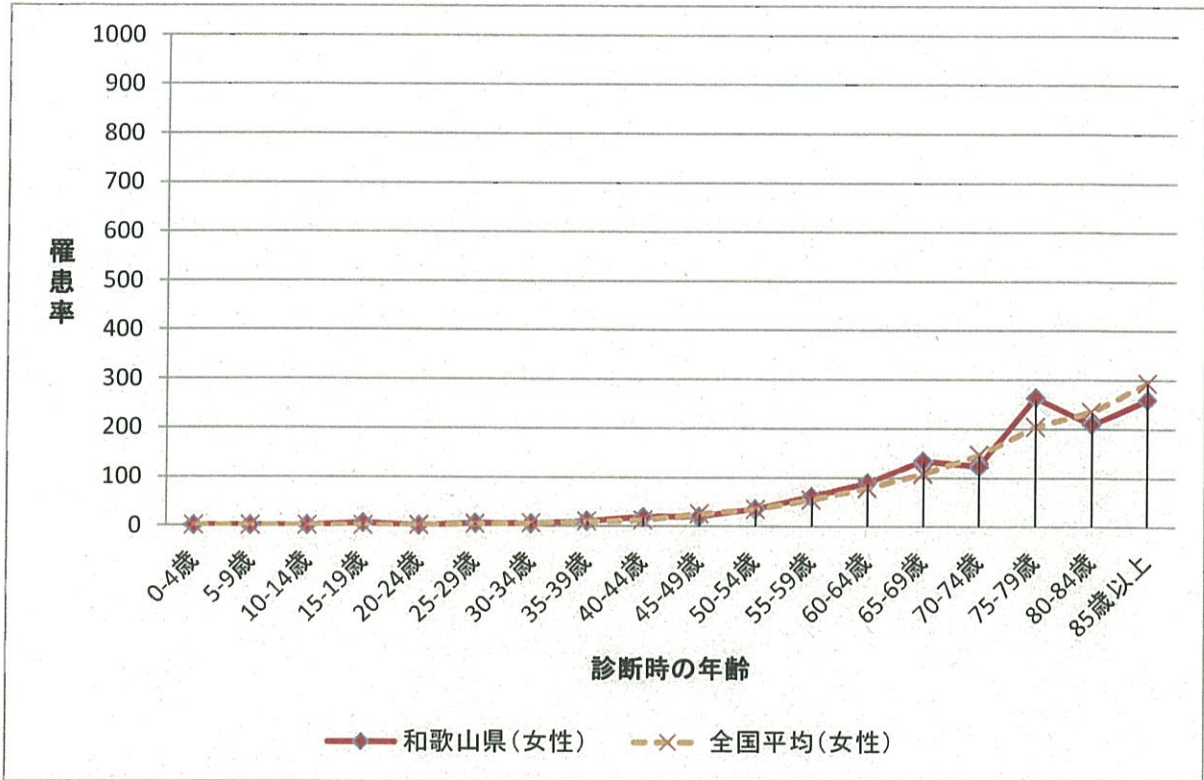
⑥ 前立腺



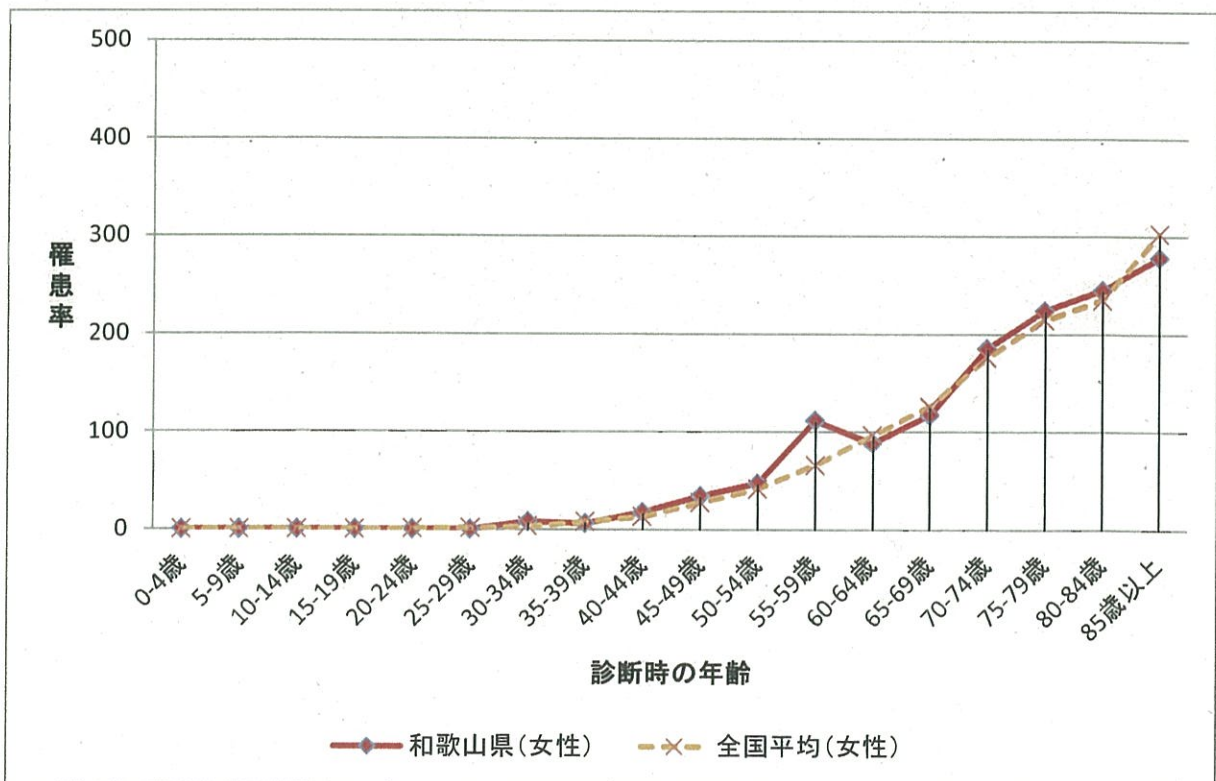
年齢階級別罹患率（人口 10 万対）；部位別、性別（主要部位）

（和歌山県と全国平均との比較）女性 ※和歌山県の数字は、標準集計表の表 3-A、3-B から作成
 直腸がん、肝および肝内胆管がん、肺がんでは、60 歳代以上のほぼ全ての高齢層の罹患率が全国平均を上回っているが、乳がんはほぼすべての年齢層で全国平均を下回っている。

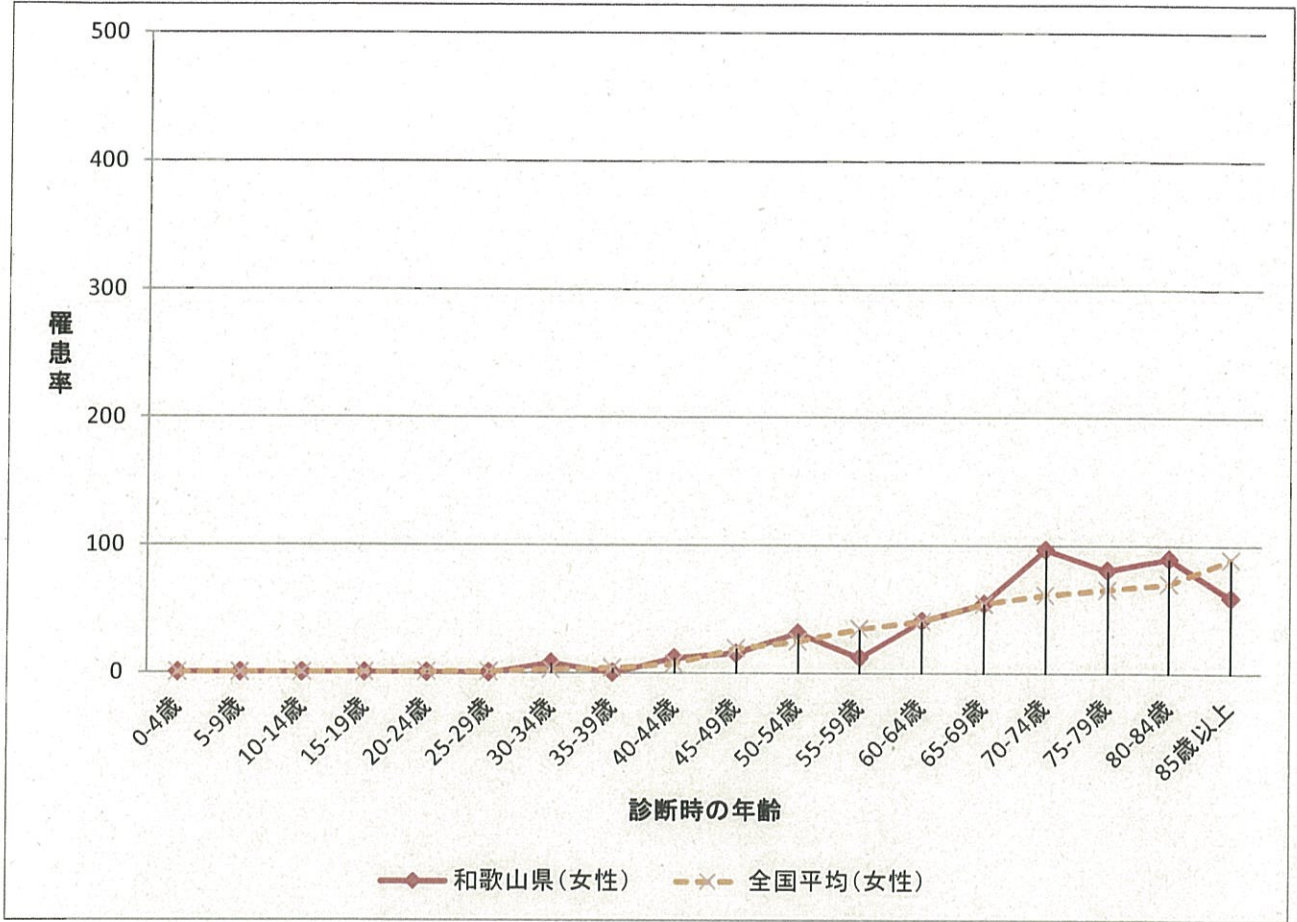
① 胃



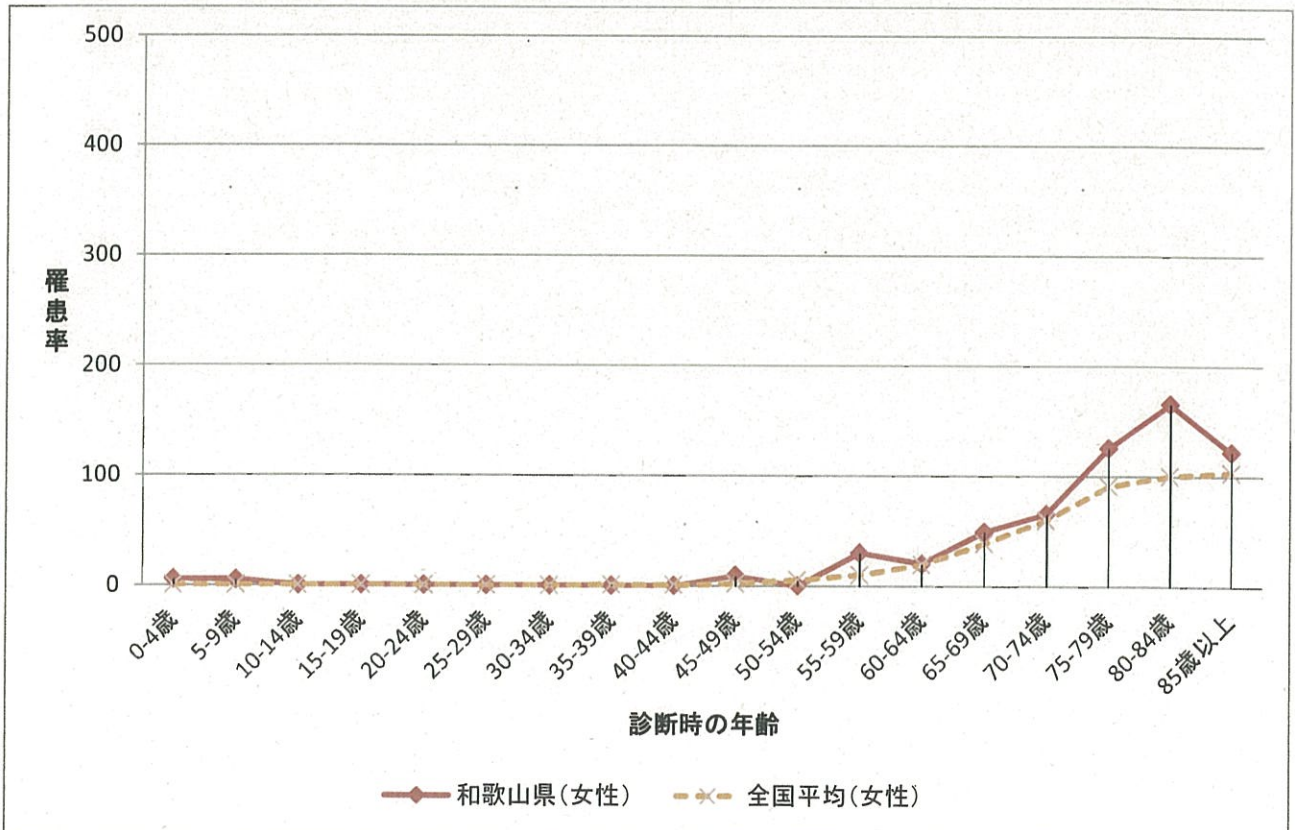
② 結腸



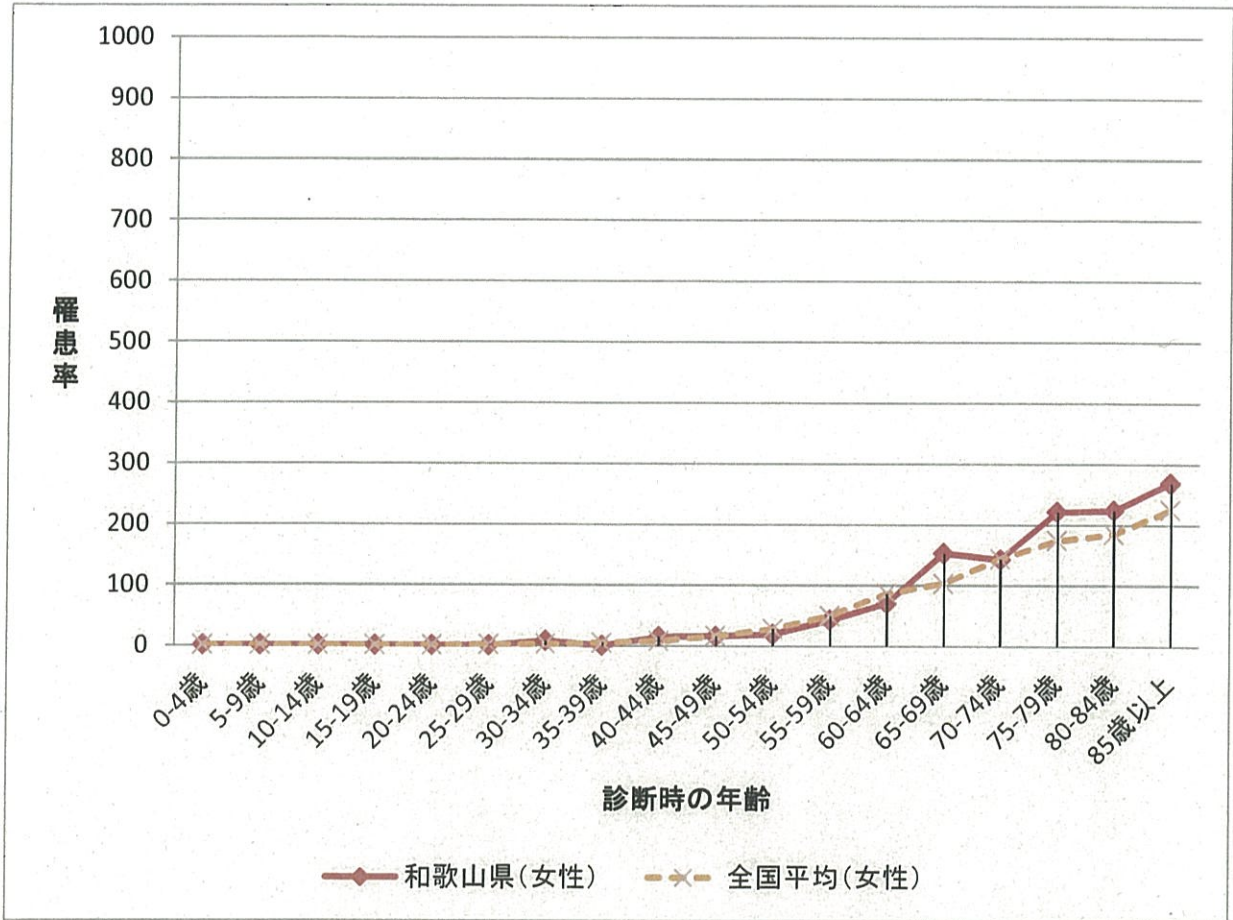
③ 直腸



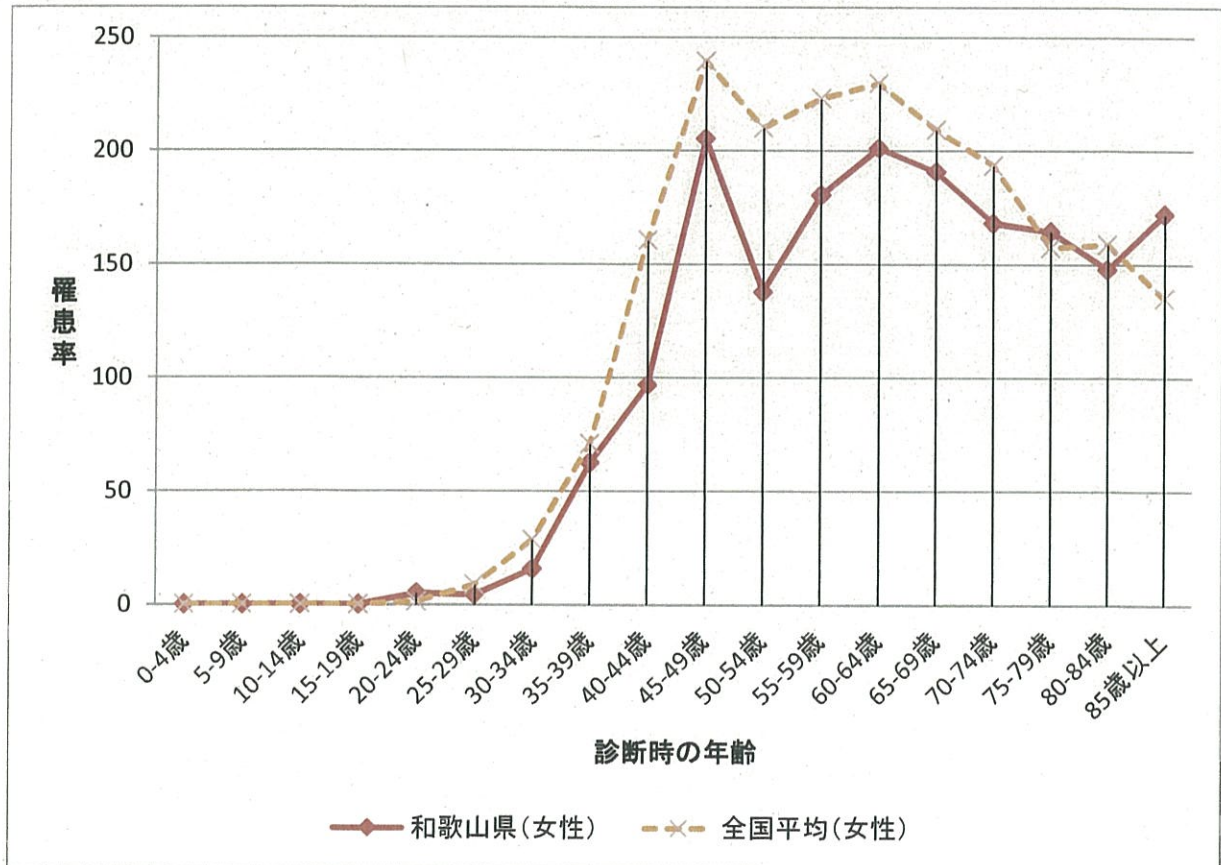
④ 肝および肝内胆管



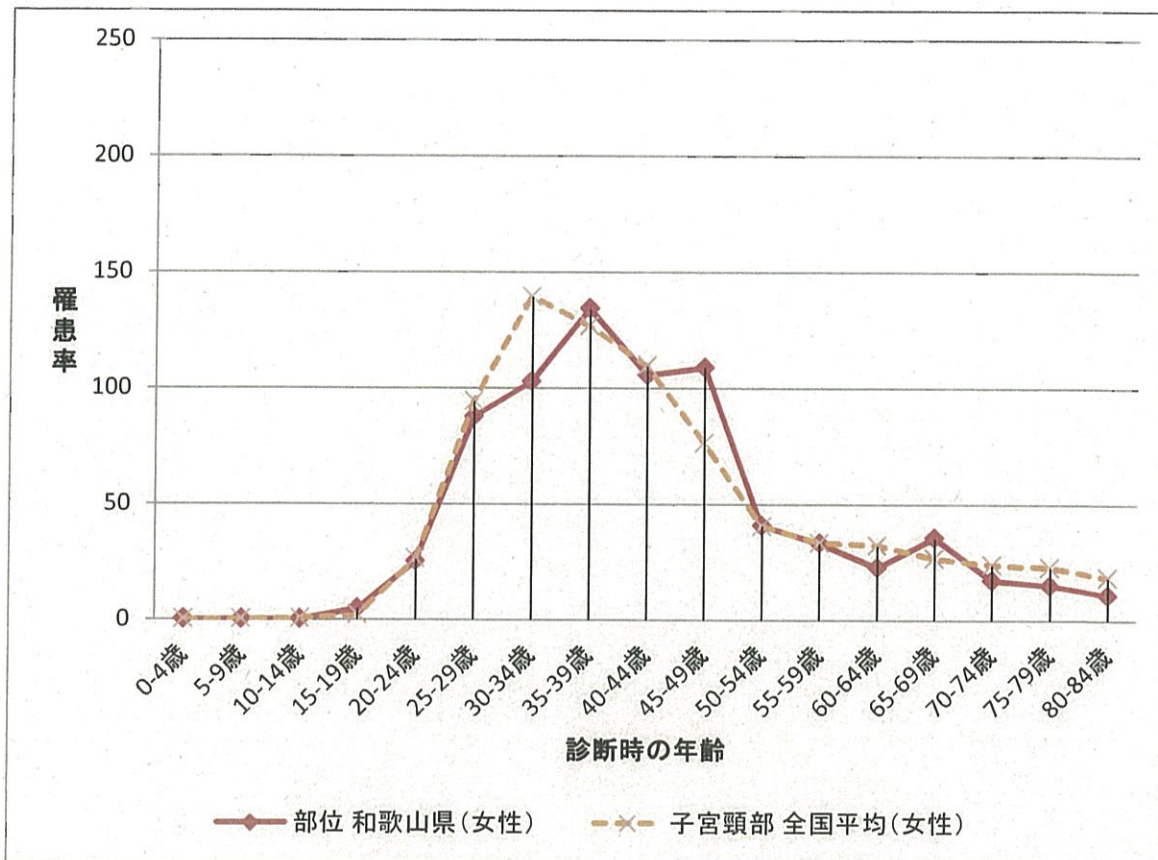
⑤ 肺



⑥ 乳房



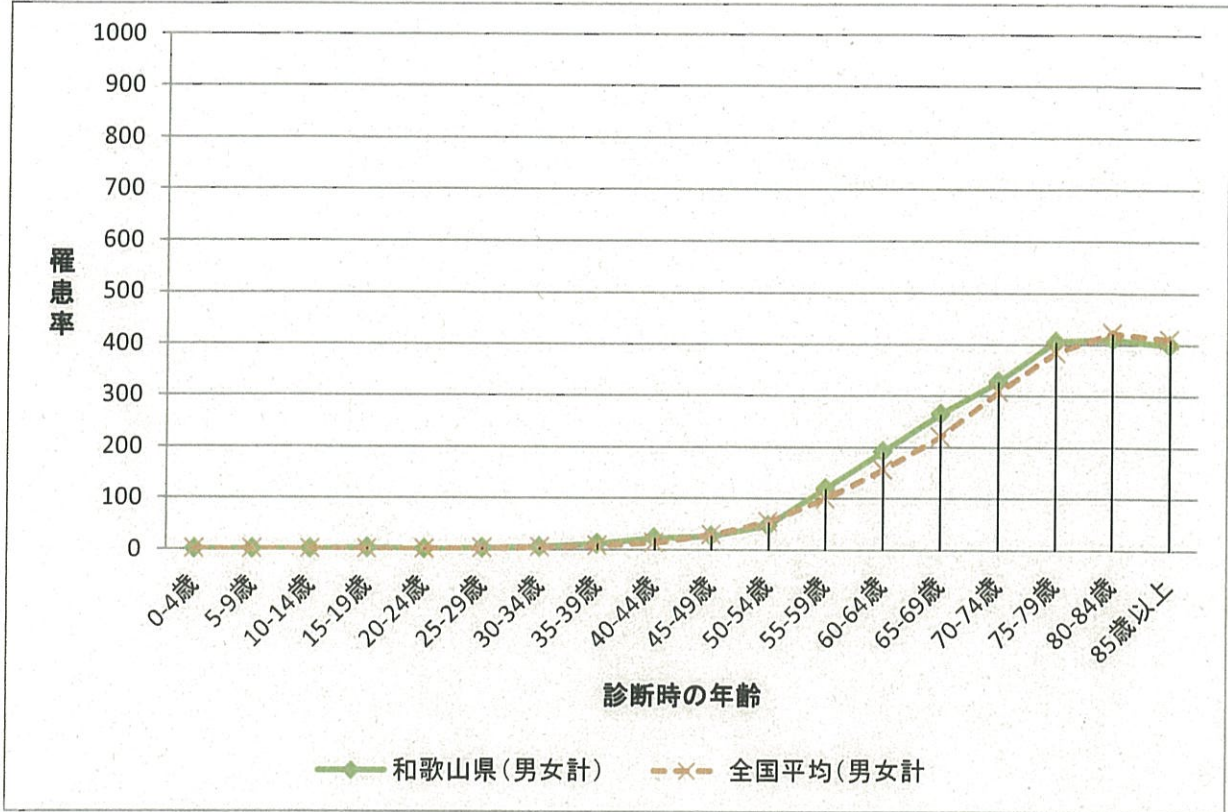
⑦ 子宮頸部



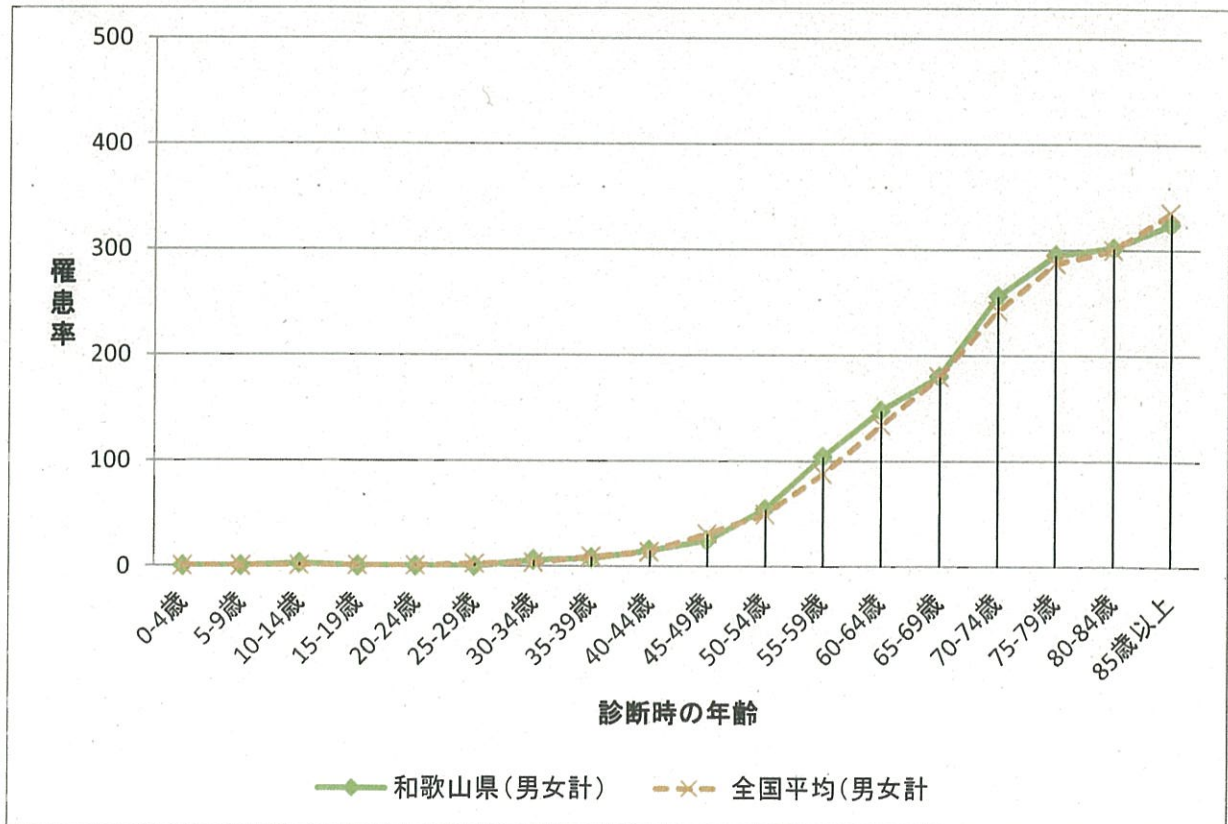
年齢階級別罹患率（人口 10 万対）；部位別、性別（主要部位）

（和歌山県と全国平均との比較）男女計 ※和歌山県の数字は、標準集計表の表 3-A、3-B から作成
 ほぼ全ての部位で、50 歳以上の罹患率が全国平均を上回っている。

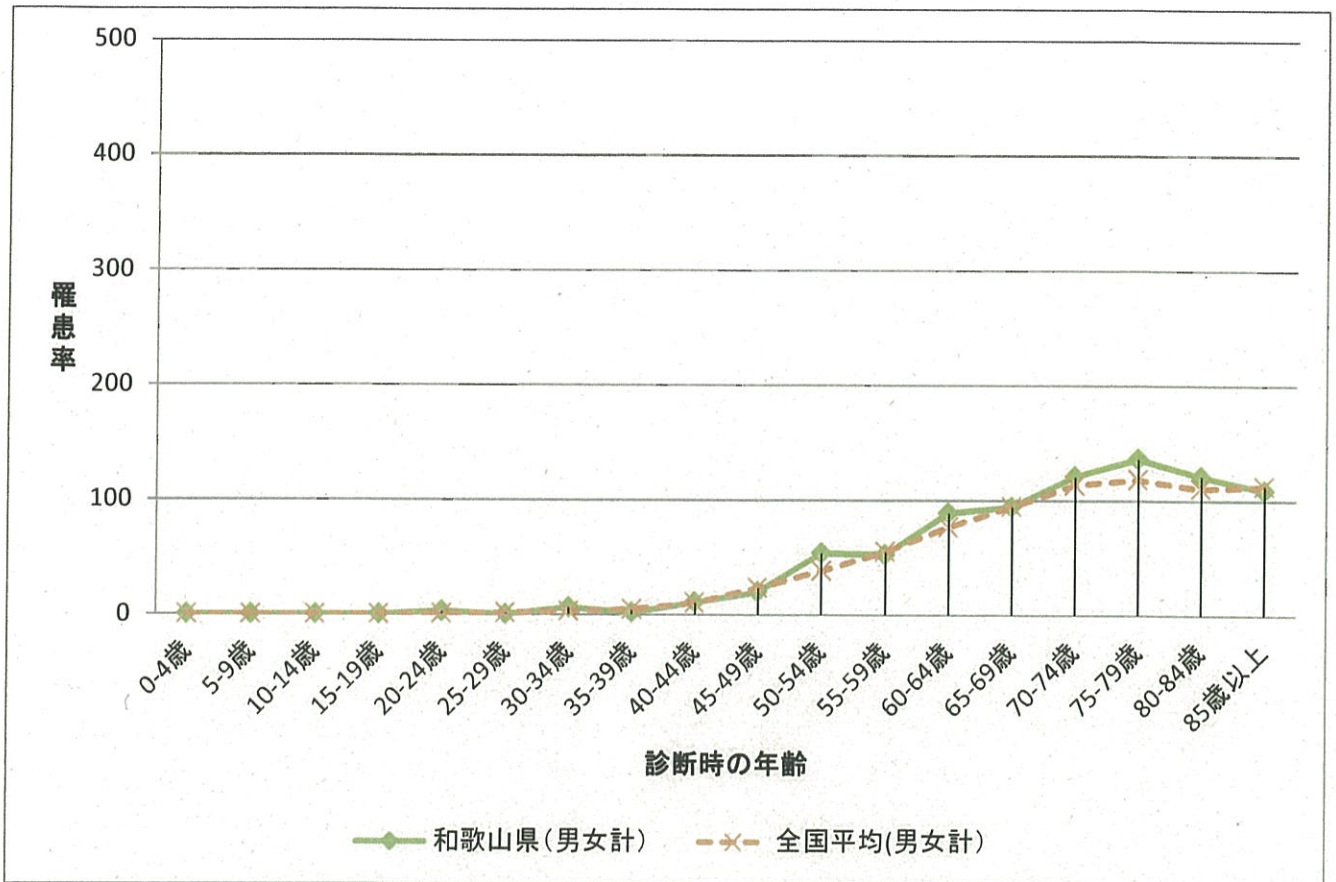
① 胃



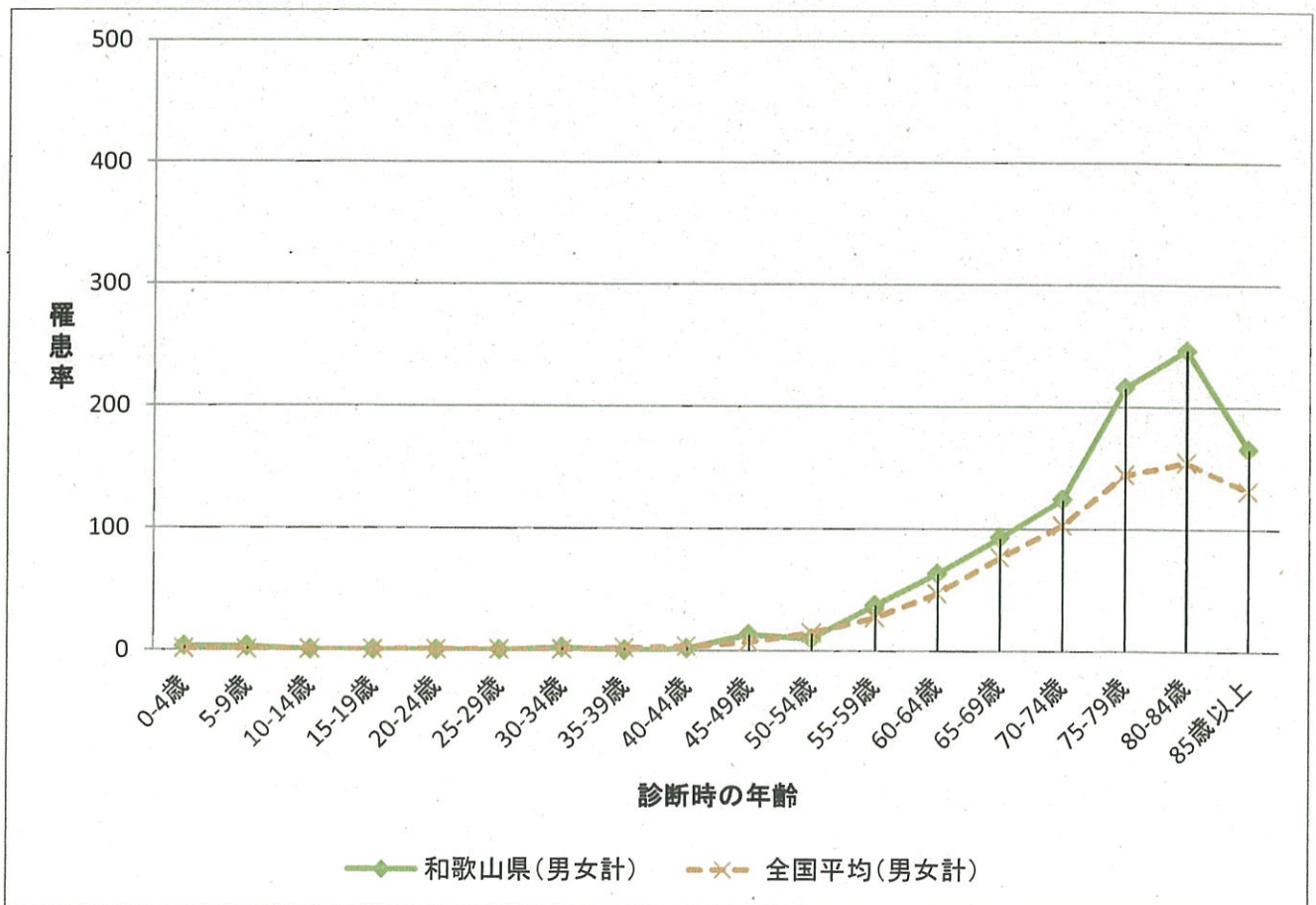
② 結腸



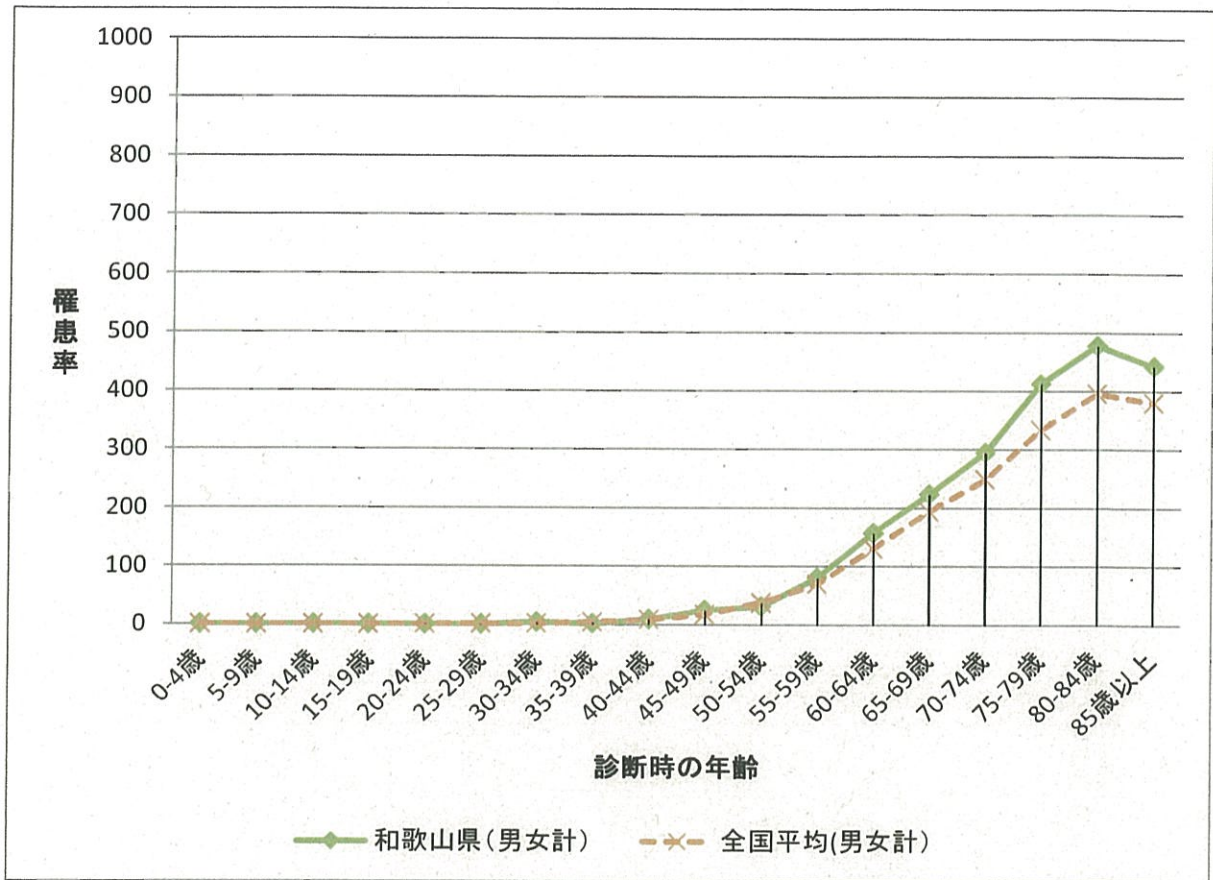
③ 直腸



④ 肝および肝内胆管

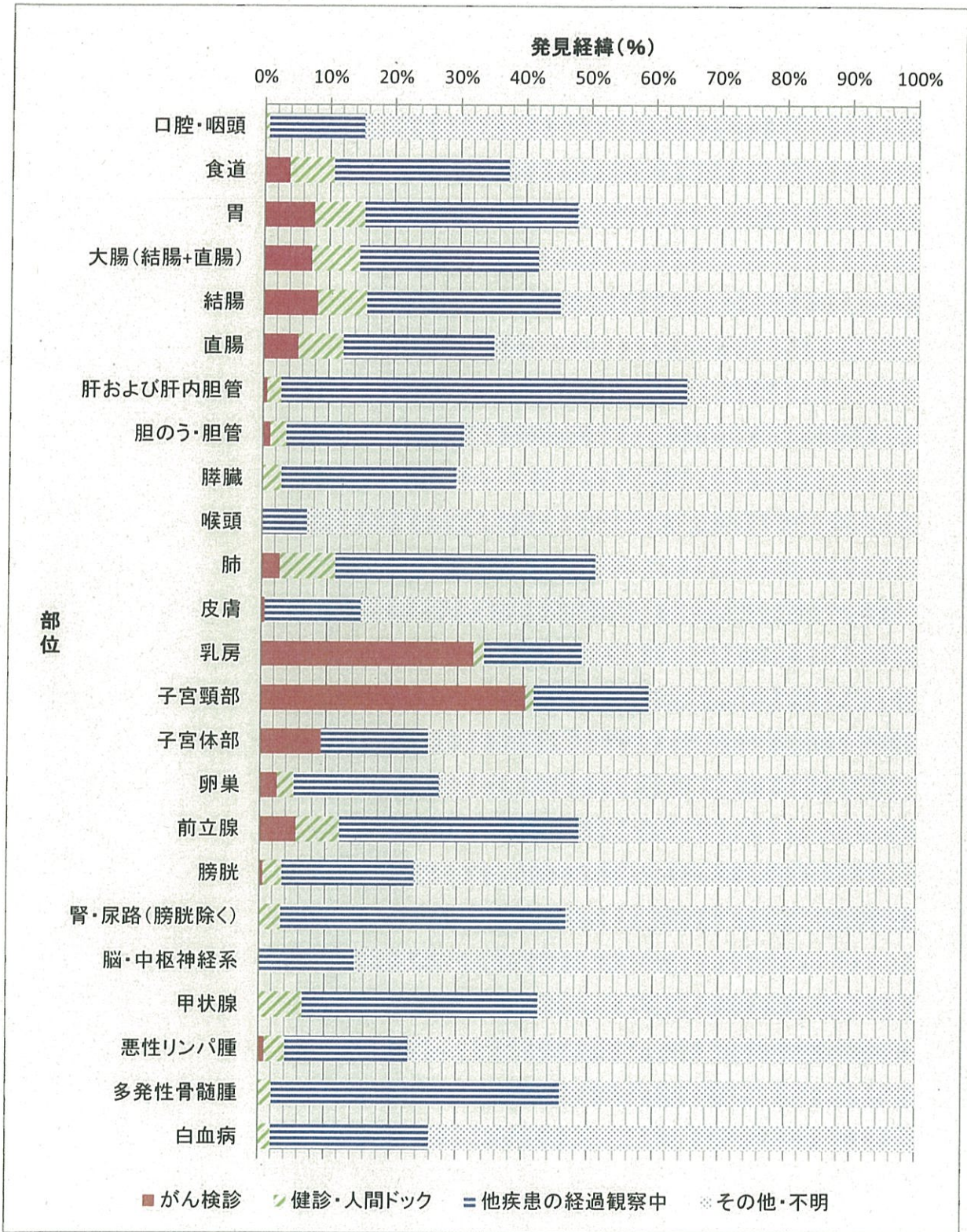


⑤ 肺



発見経緯 (%) 部位別

【和歌山県の状況】



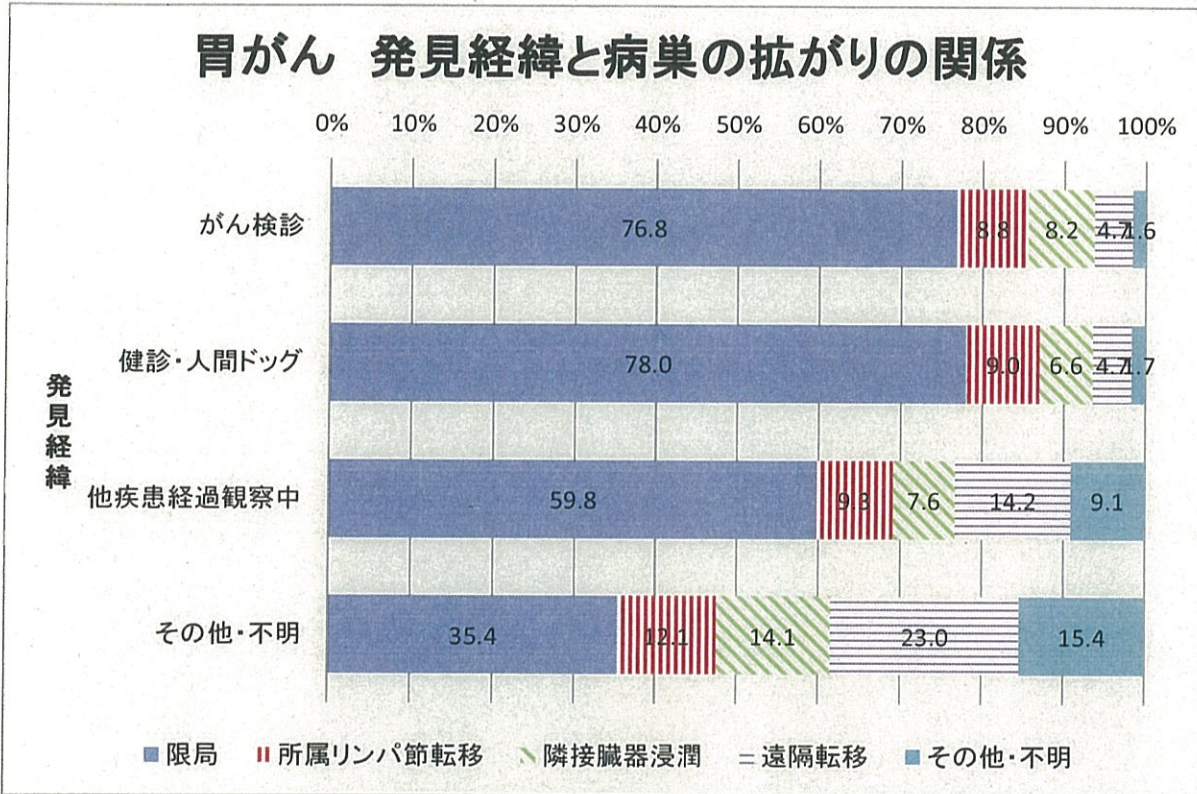
乳房がん及び子宮頸がんでは、がん検診による発見経緯が30%～40%の割合で占めている。また肝および肝内胆管がんでは、他疾患の経過観察中の割合が62%ある。これは肝炎、肝硬変の経過観察中に発見されるケースが多いためであると推察する。

※ 詳細な数字については、標準集計表の表 4-A、4-B を参照のこと

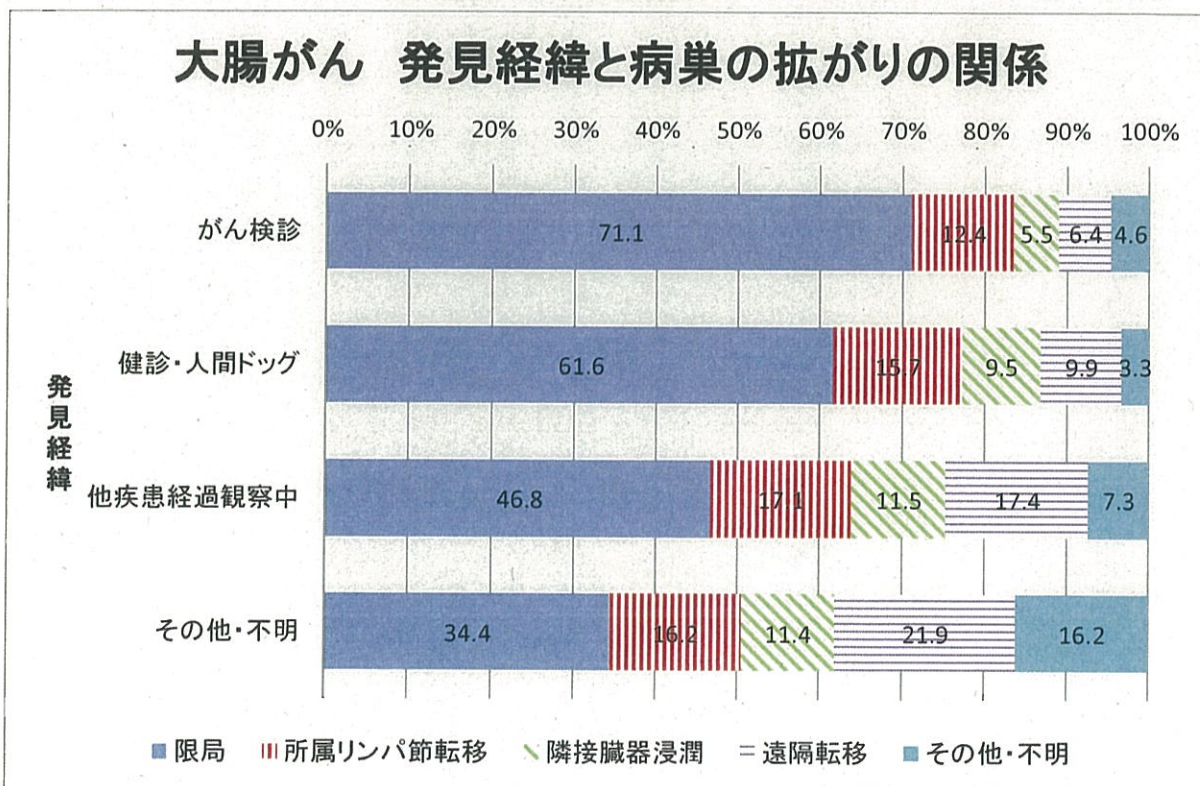
部位別・発見経緯別・病巣の拡がり（％）の関係

和歌山県でがん検診が実施されている部位（胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部）別に、「がん」が発見されるに至った経緯と「がん」の進行度（病巣の拡がり）の割合との関係性を調査した。なお、ここで示すデータは、2009年～2012年診断分（4年分）のデータを利用した。

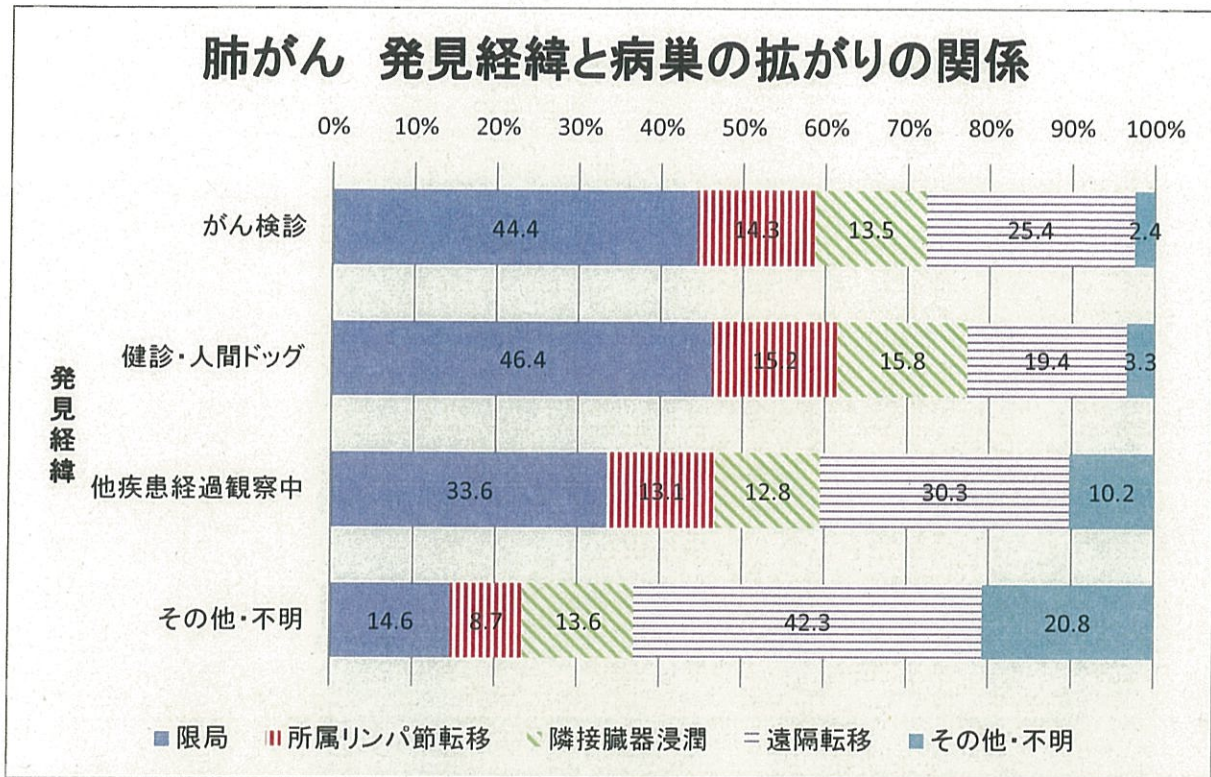
① 胃がん



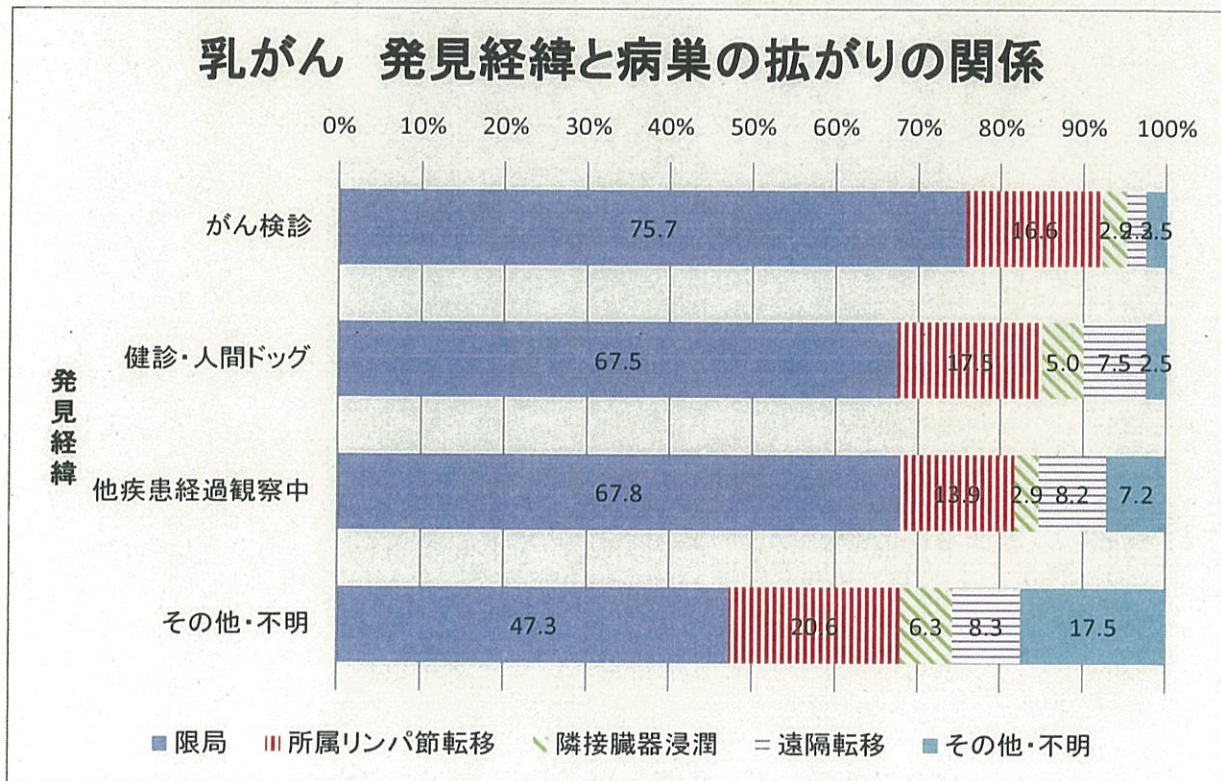
② 大腸がん



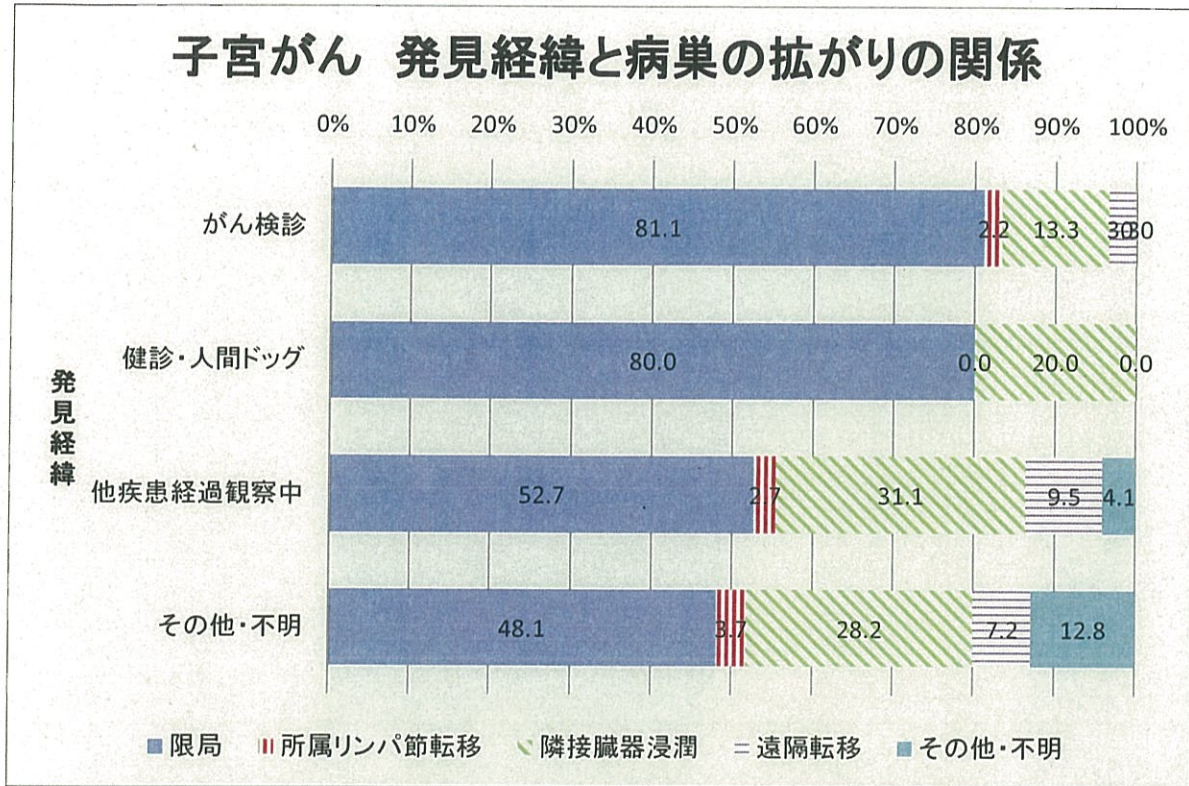
③ 肺がん



④ 乳がん



⑤ 子宮頸がん



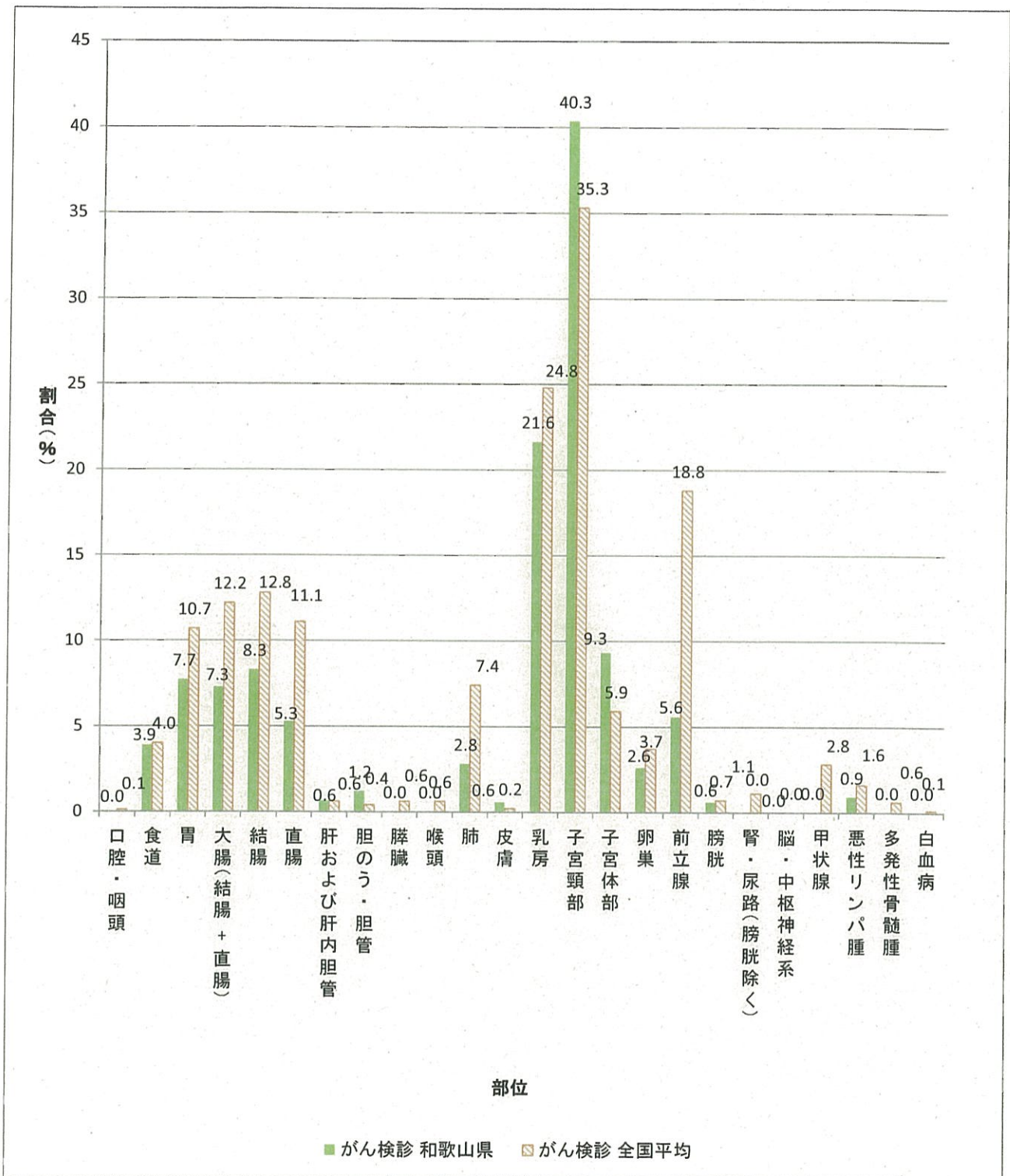
- ※ 一般的に「早期がん」と言われる病巣の拡がりには、上皮内と限局のことを示す。
- ※ 胃がんの病巣の拡がりには、「上皮内」は存在しない。
- ※ 発見経緯の「他疾患の経過観察中」とは、慢性疾患等で通院中に「がん」と診断されるに至った経緯のことを示す。

胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部のいずれにおいても、「がん検診」、「健診・人間ドック」で発見された場合は、「上皮内・限局」の状態と診断される割合が高く、「その他・不明」で発見された場合になると、「所属リンパ節転移、隣接臓器浸潤、遠隔転移」のがんが進行した状態で診断される割合が高くなっている。なお、「その他・不明」には、何らかの症状を自覚してから医療機関を受診するケースを含んでいる。

以上のことより、がん検診、健診・人間ドックは、がんの早期発見に有効であることがわかる。

部位別・発見経緯別罹患率(%) 男女計

【発見経緯が「がん検診」の割合(和歌山県と全国平均との比較)】

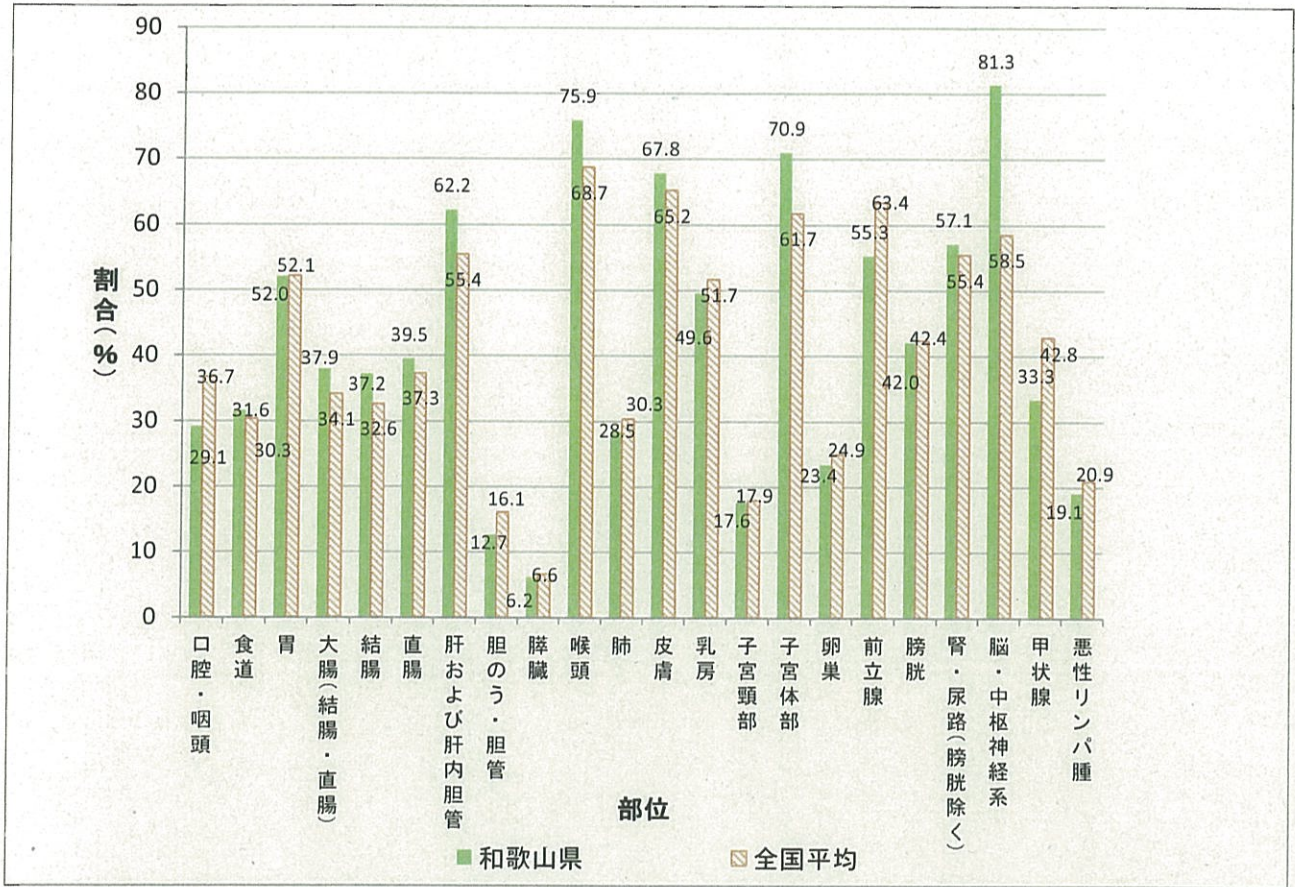


がん検診での発見が全国平均を上回っているのは子宮頸がん、子宮体がん、胆のう・胆管がんのみである。それ以外の部位では全国平均より低い割合を示している。

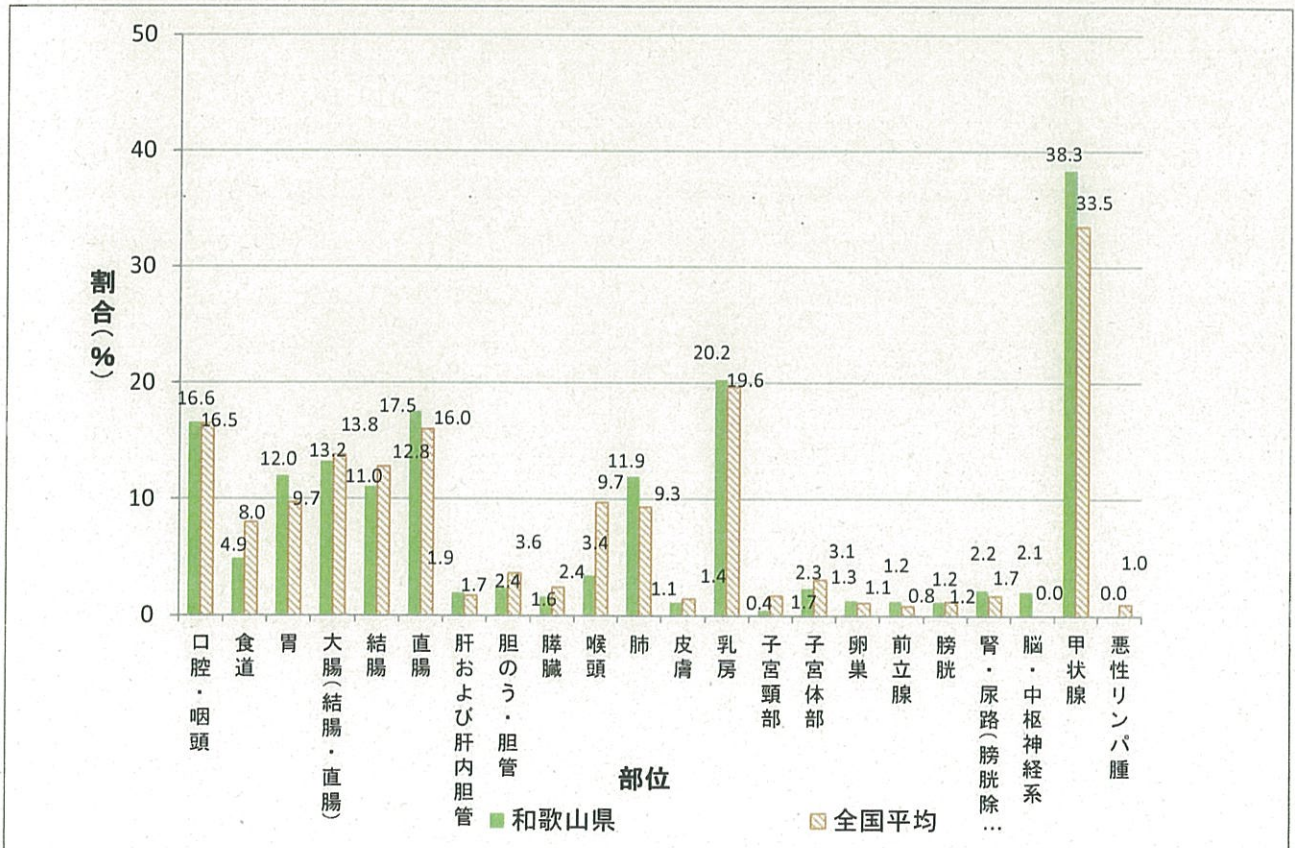
※ 和歌山県の数字は、標準集計表の表4-A、4-Bから作成

部位別・進展度分布 (%) 全国平均との比較

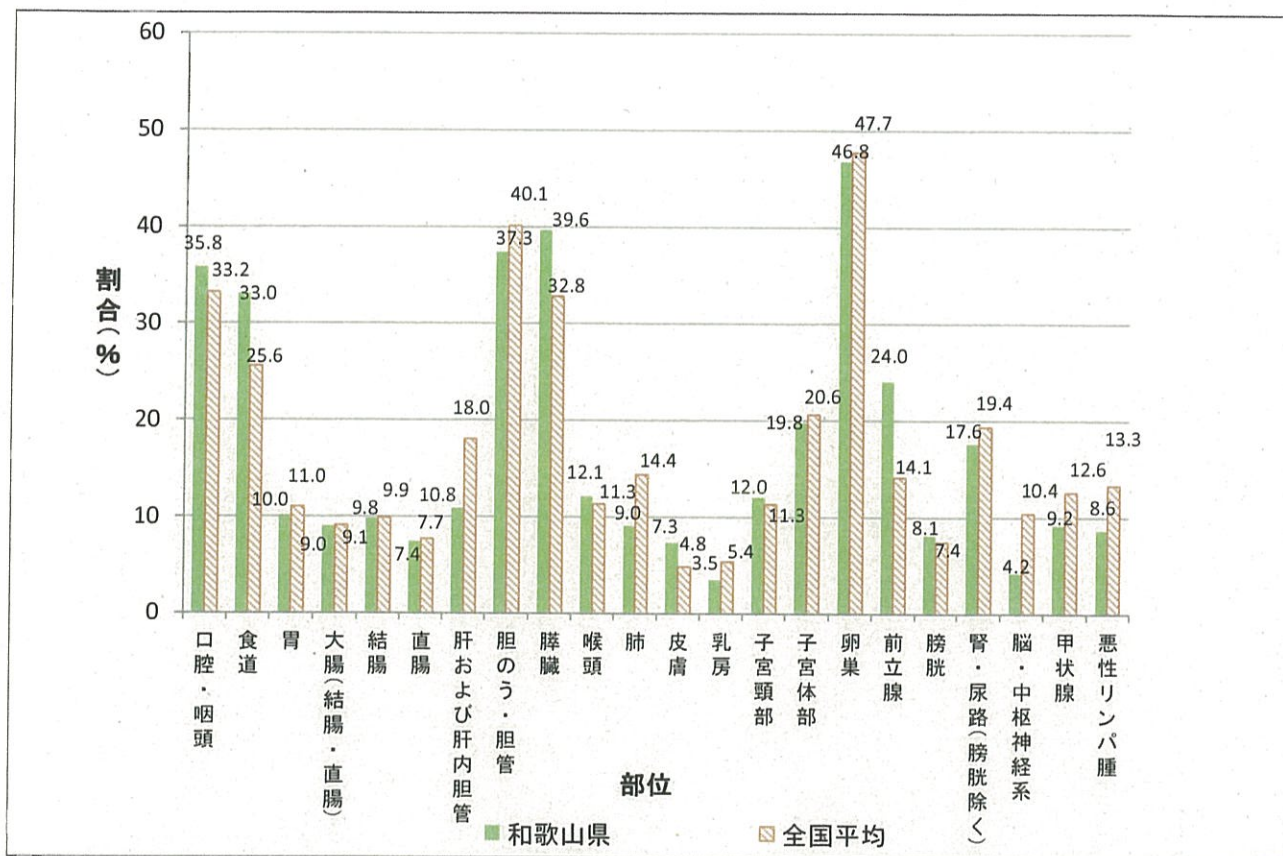
① 限局



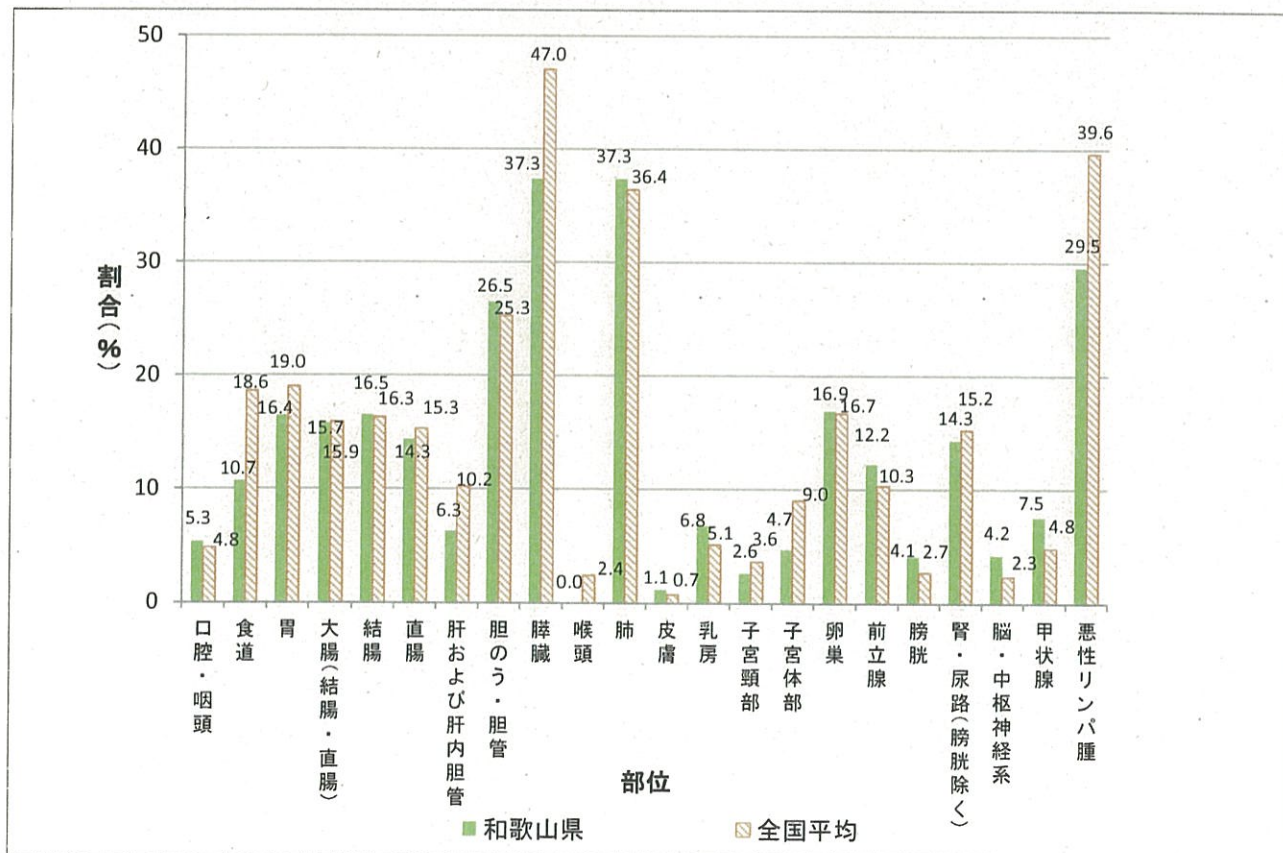
② 所属リンパ節



③ 隣接臓器浸潤

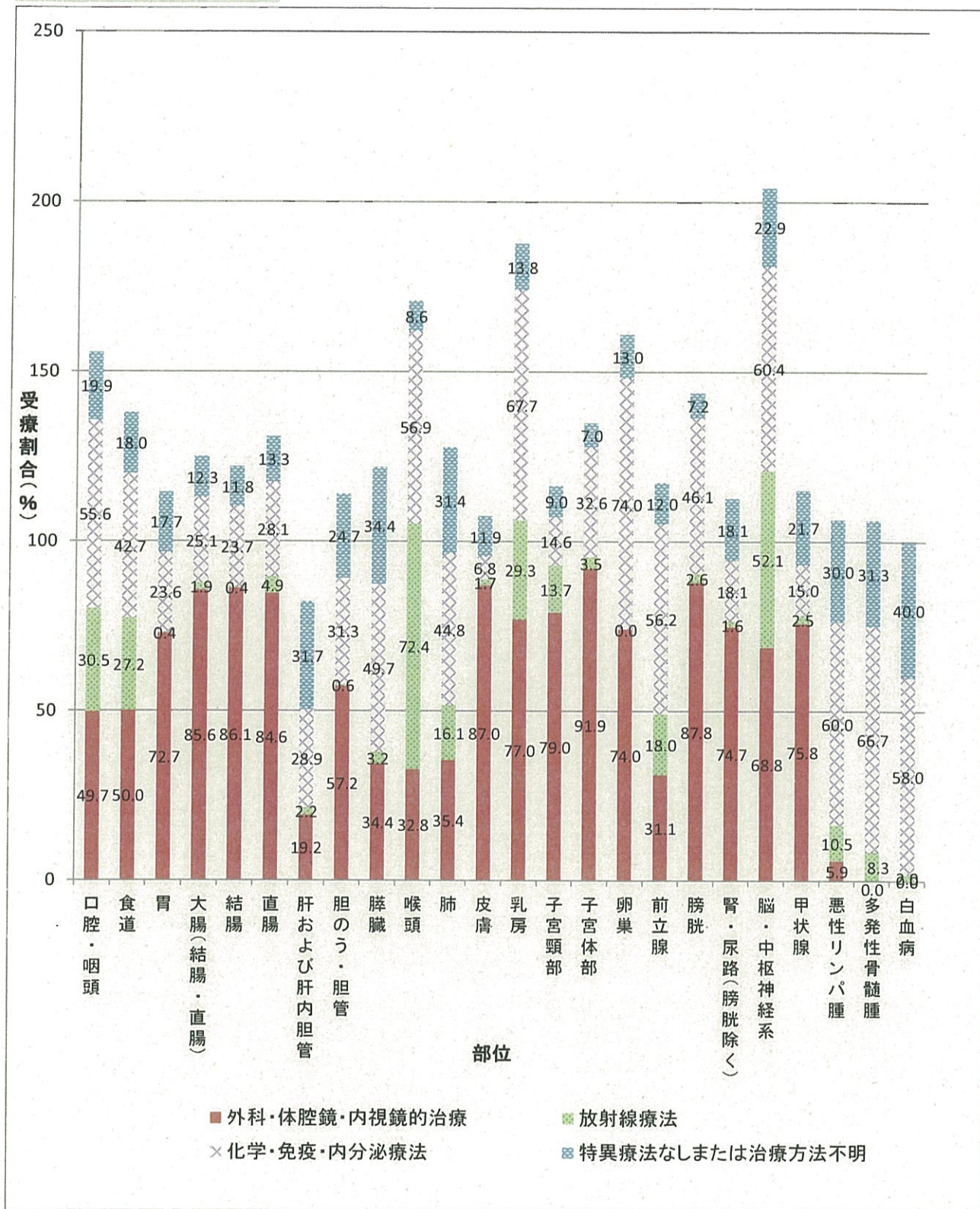


④ 遠隔転移



※標準集計表の表 5-A、5-B から作成

部位別・受療割合 (%)



※重複を含むため 100%にならない。

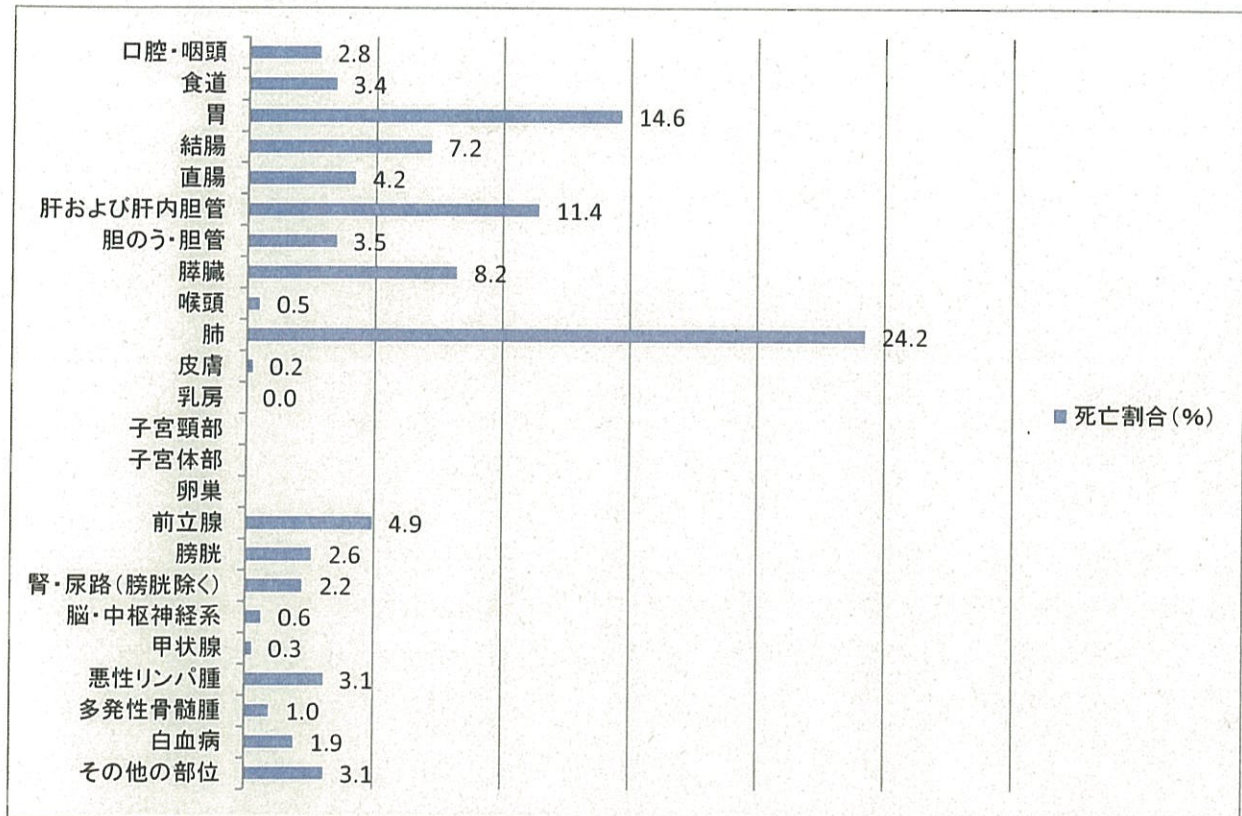
受療割合で見ると、外科・体腔鏡・内視鏡的治療の割合は高く、特に結腸がん、直腸がん、皮膚がん、子宮体がんや膀胱がんが高い。また、放射線療法は喉頭がん及び脳・中枢神経系で高く、化学・免疫・内分泌療法では、乳房がん、卵巣がん、脳・中枢神経系、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫及び白血病が多くを占めている。

※ 標準集計表の表 6-A、6-B から作成

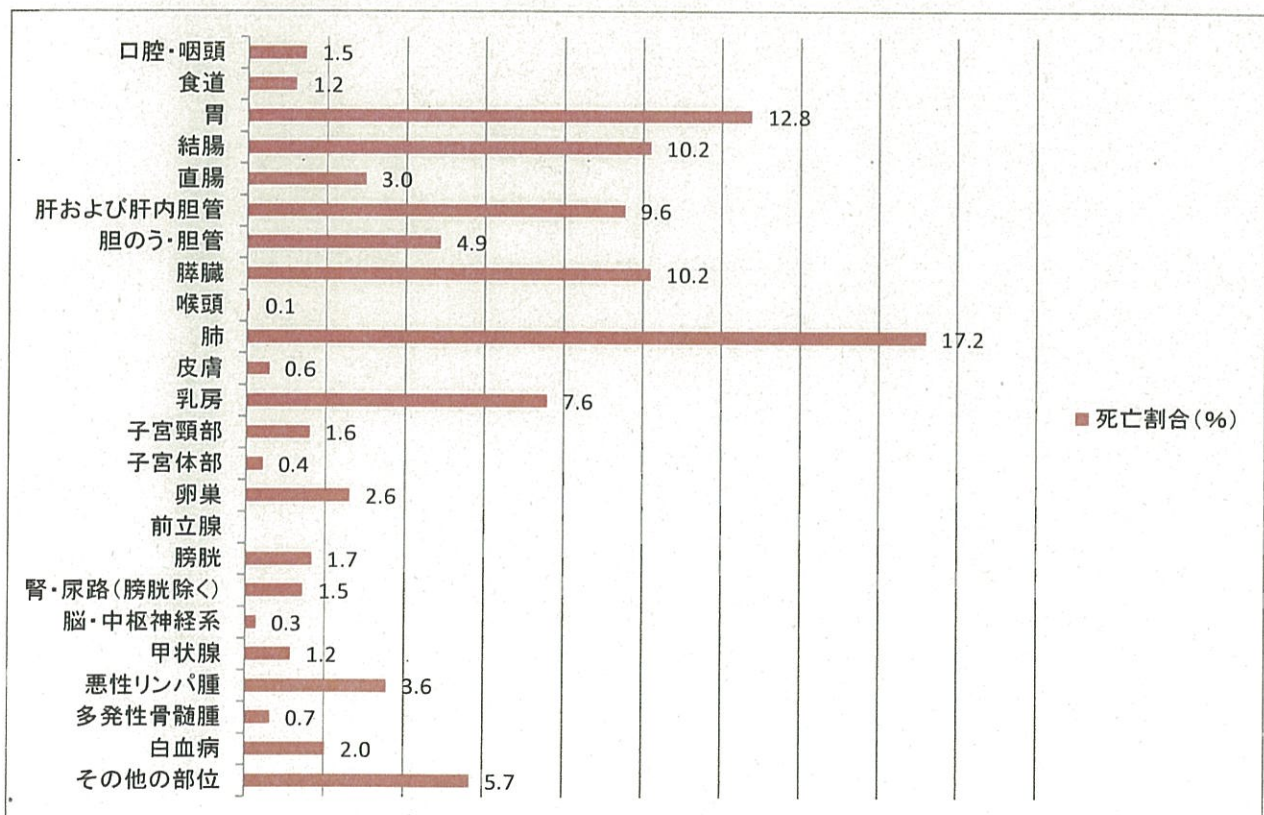
2012 年部位別・死亡割合 ※標準集計表の表 9 から作成

男性は肺がんが特に高く、次いで胃がん、肝および肝内胆管がんが高い。女性でも肺がん、胃がんの順だが、結腸がんや膵臓がん、肝及び肝内胆管がん、乳がんも高い。

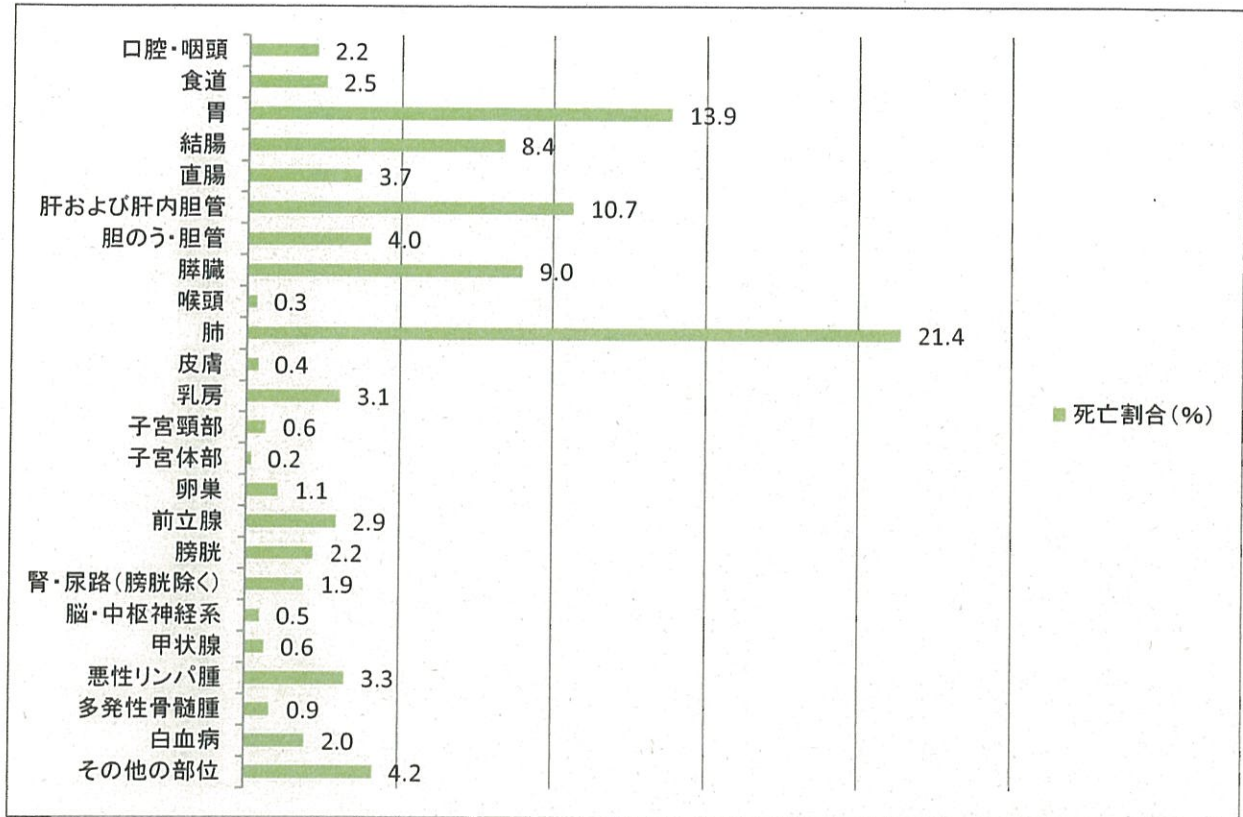
(男性)



(女性)



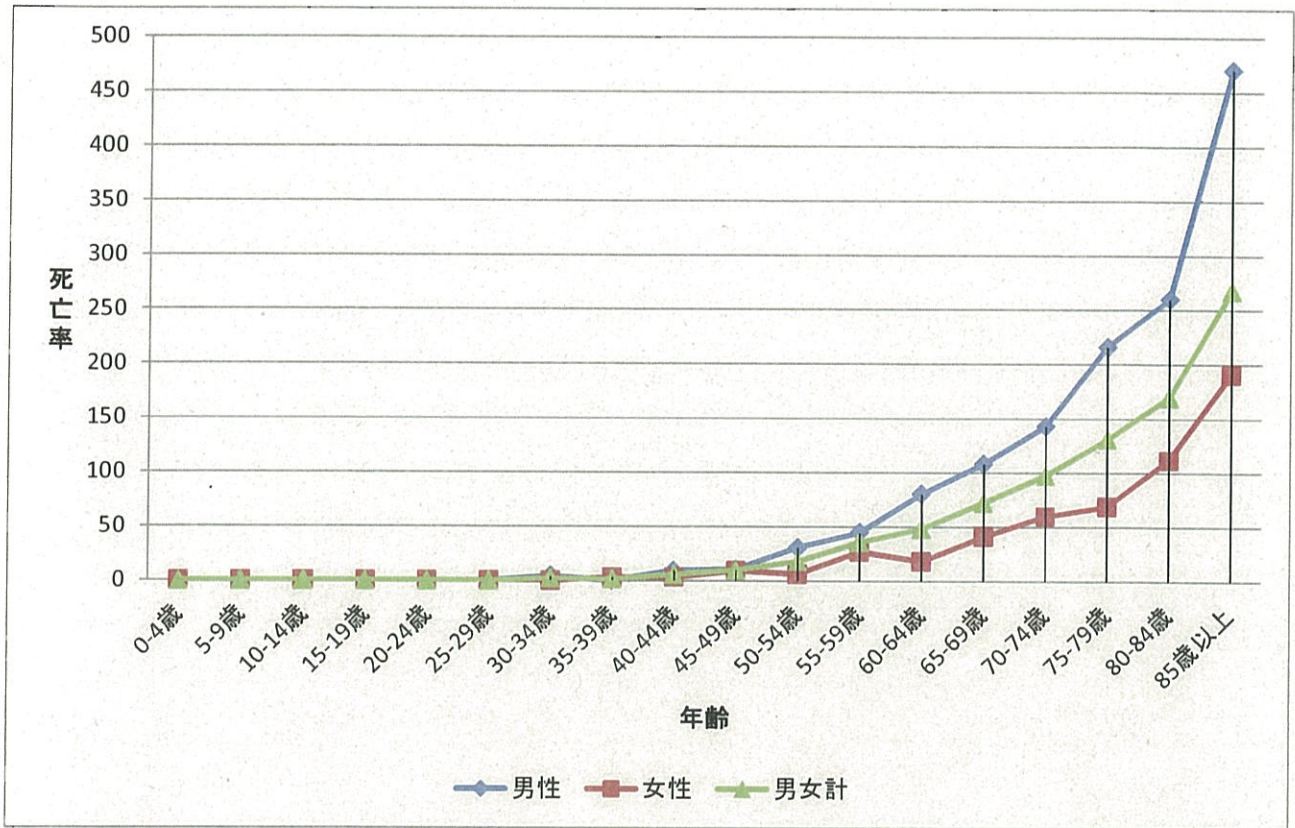
(男女計)



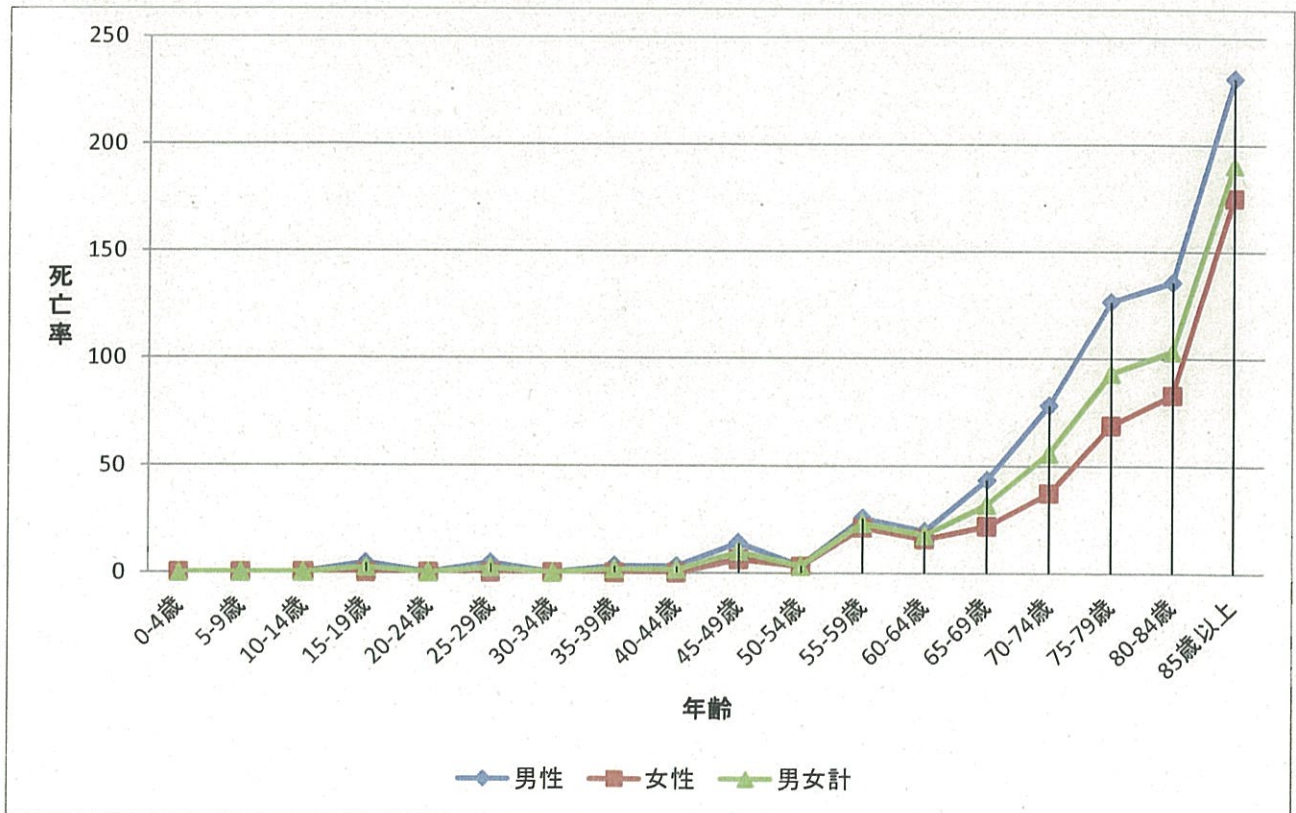
年齢階級別死亡率（人口 10 万対）；部位別、性別（主要部位）

※ 標準集計表の表 11 から作成

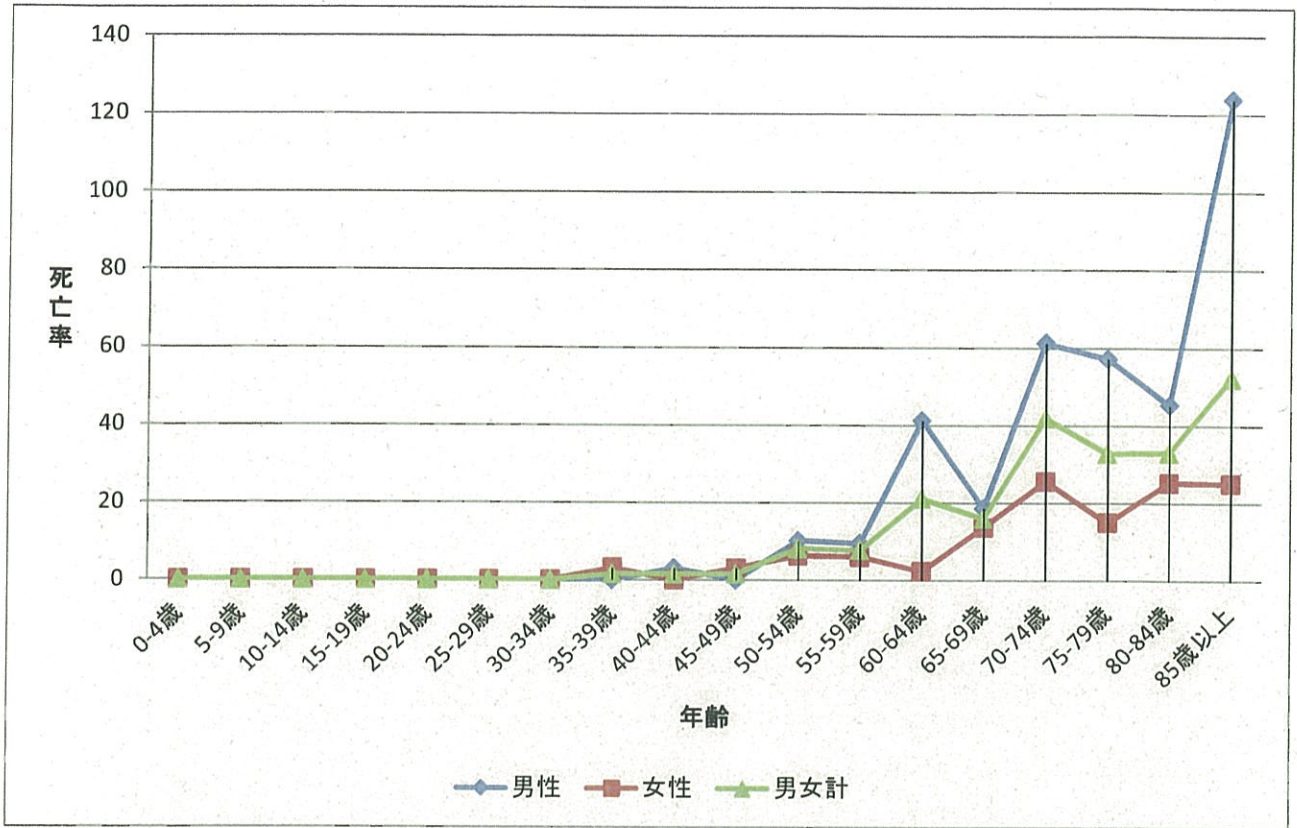
① 胃



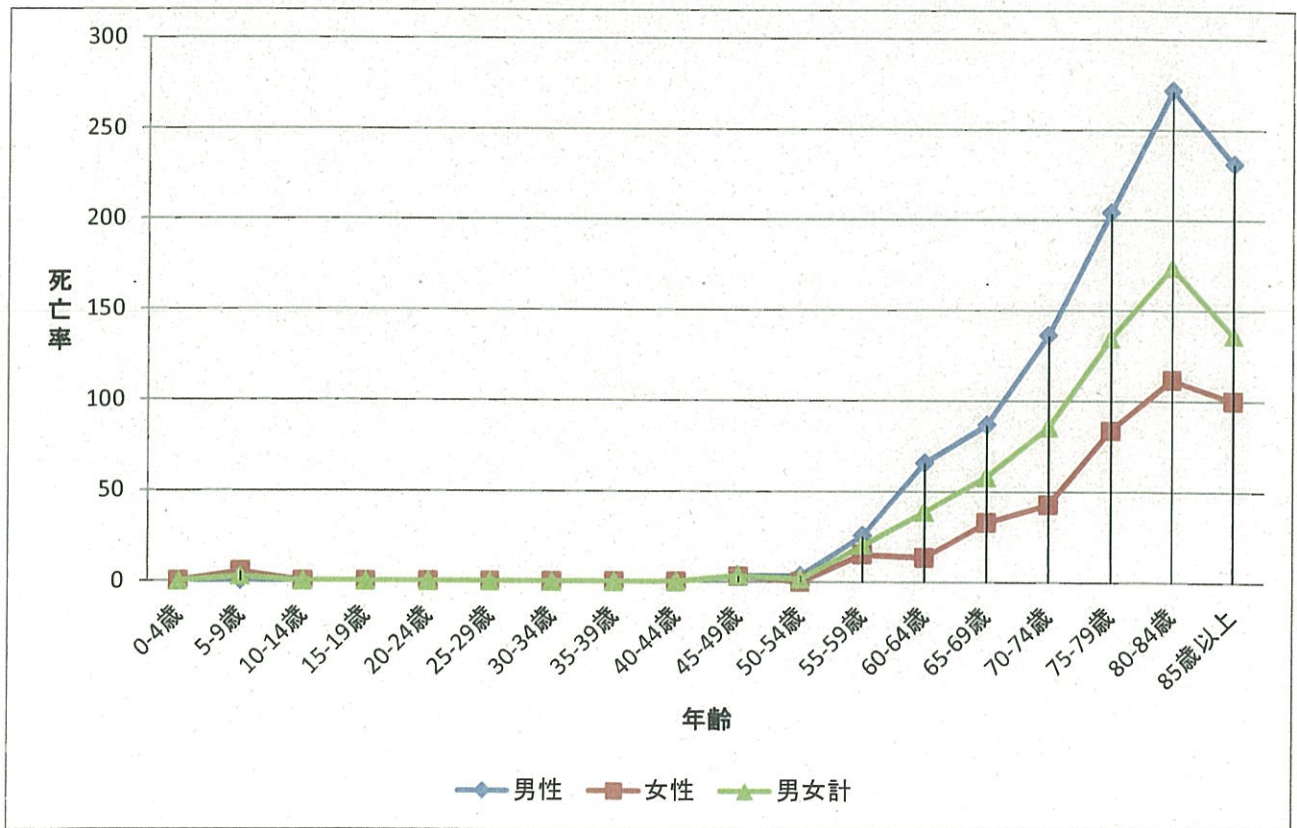
② 結腸



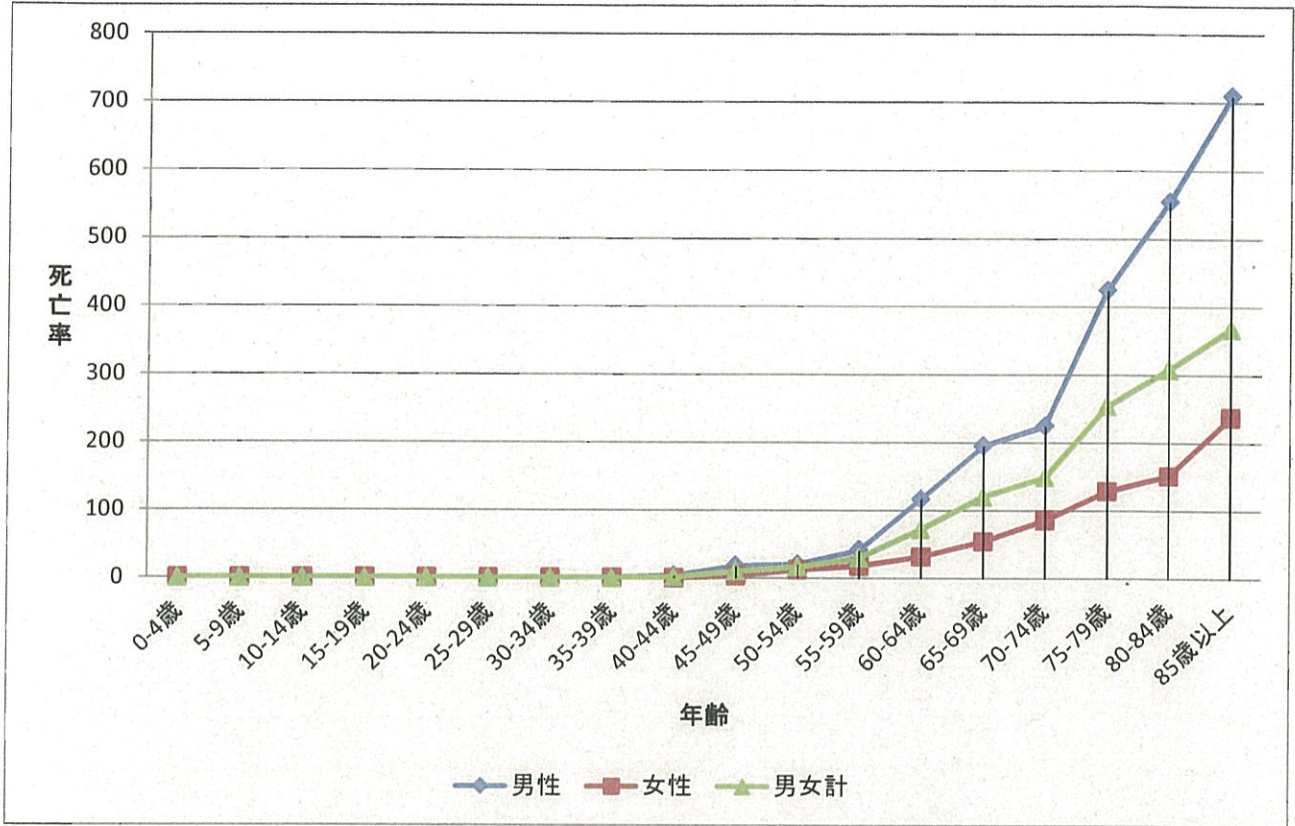
③ 直腸



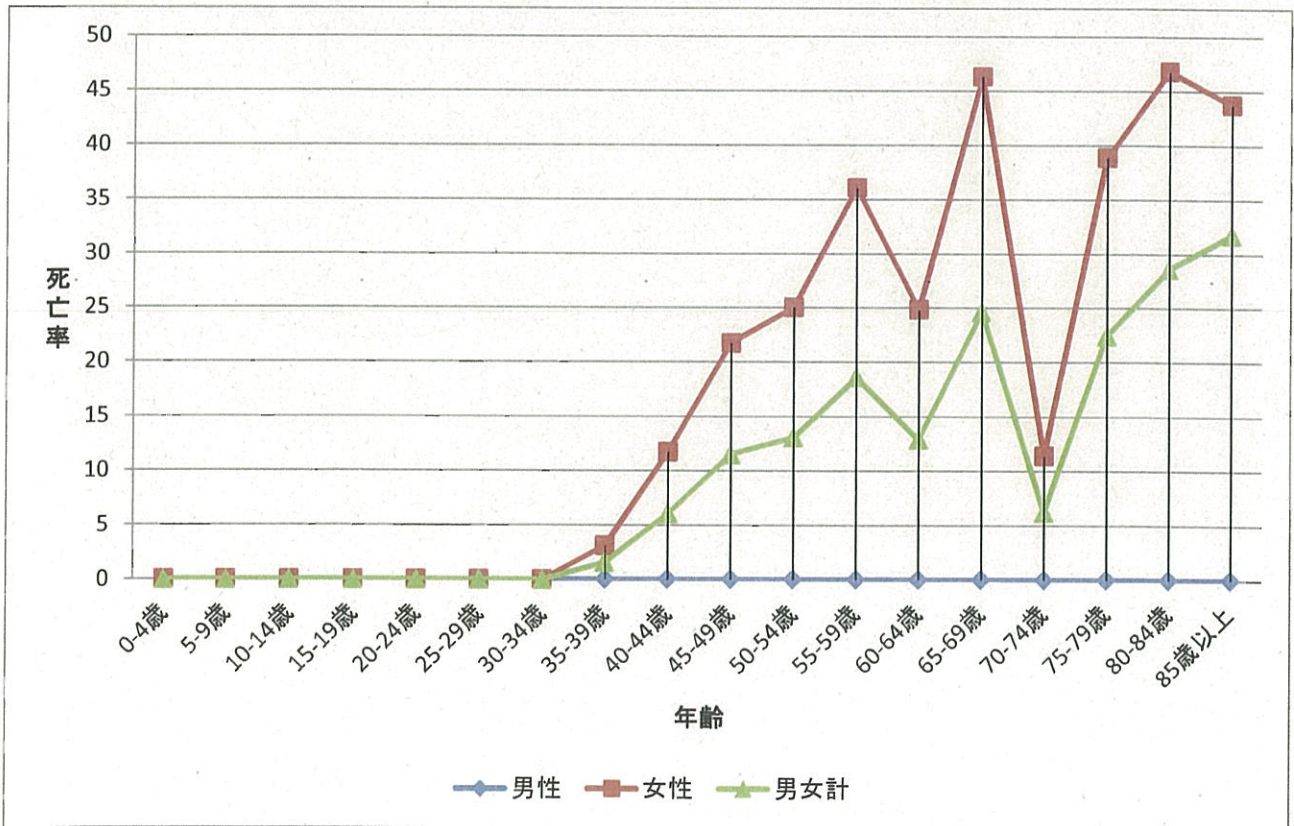
④ 肝および肝内胆管



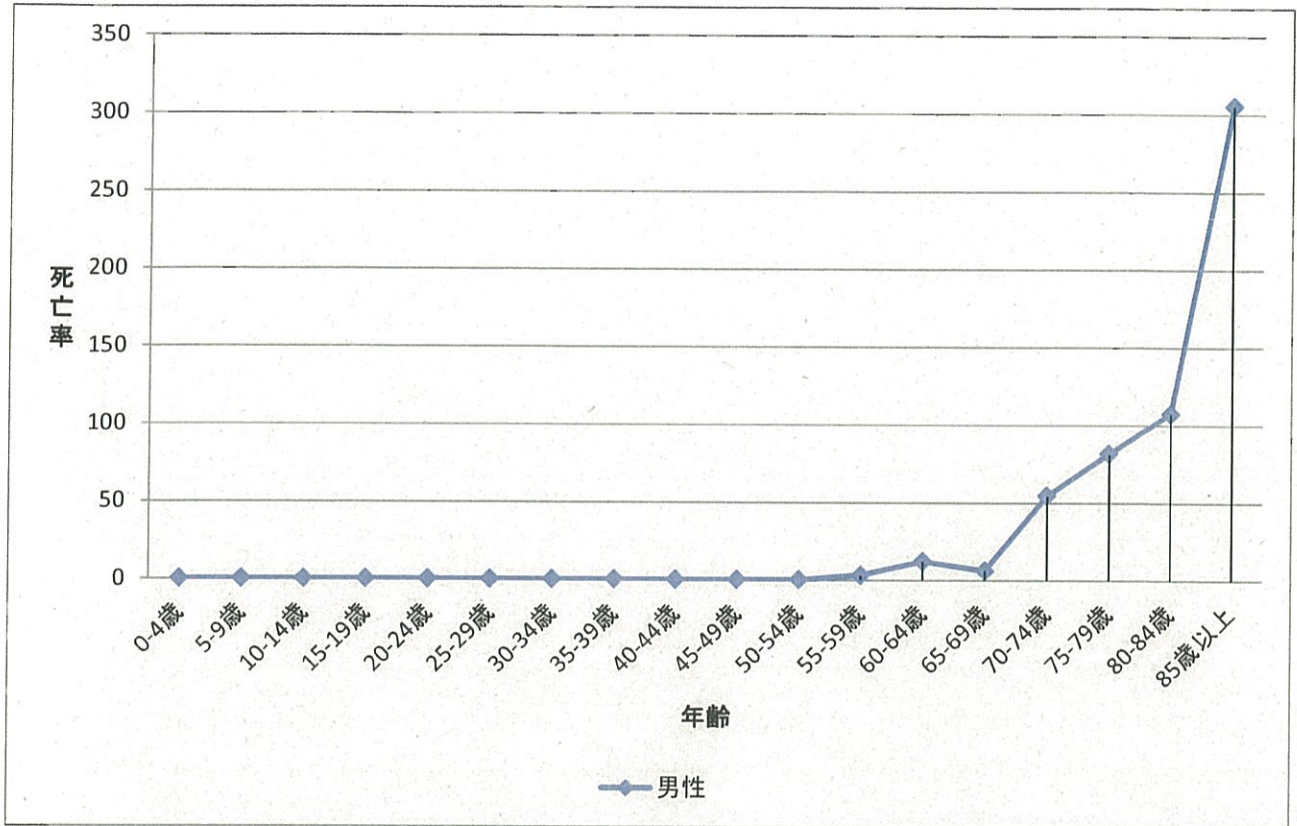
⑤ 肺



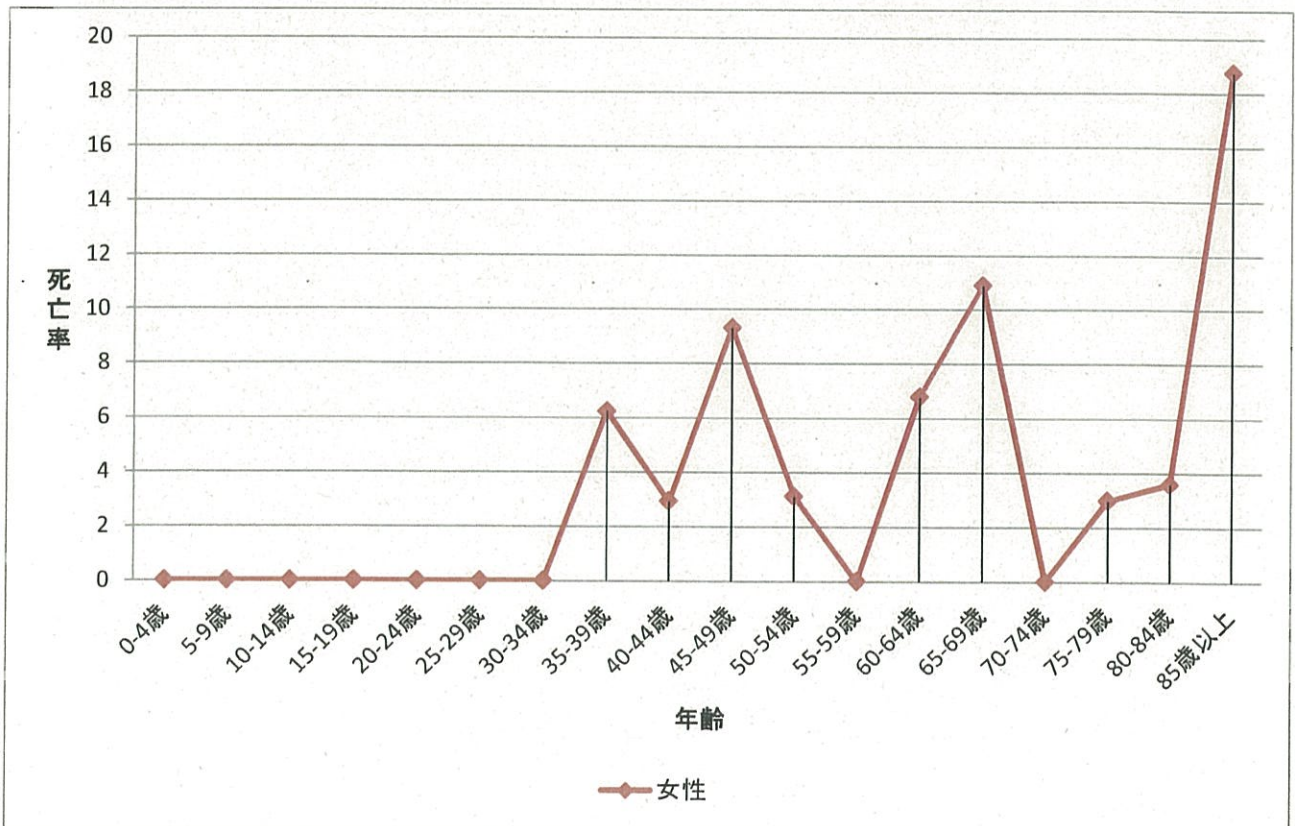
⑥ 乳房



⑦ 前立腺

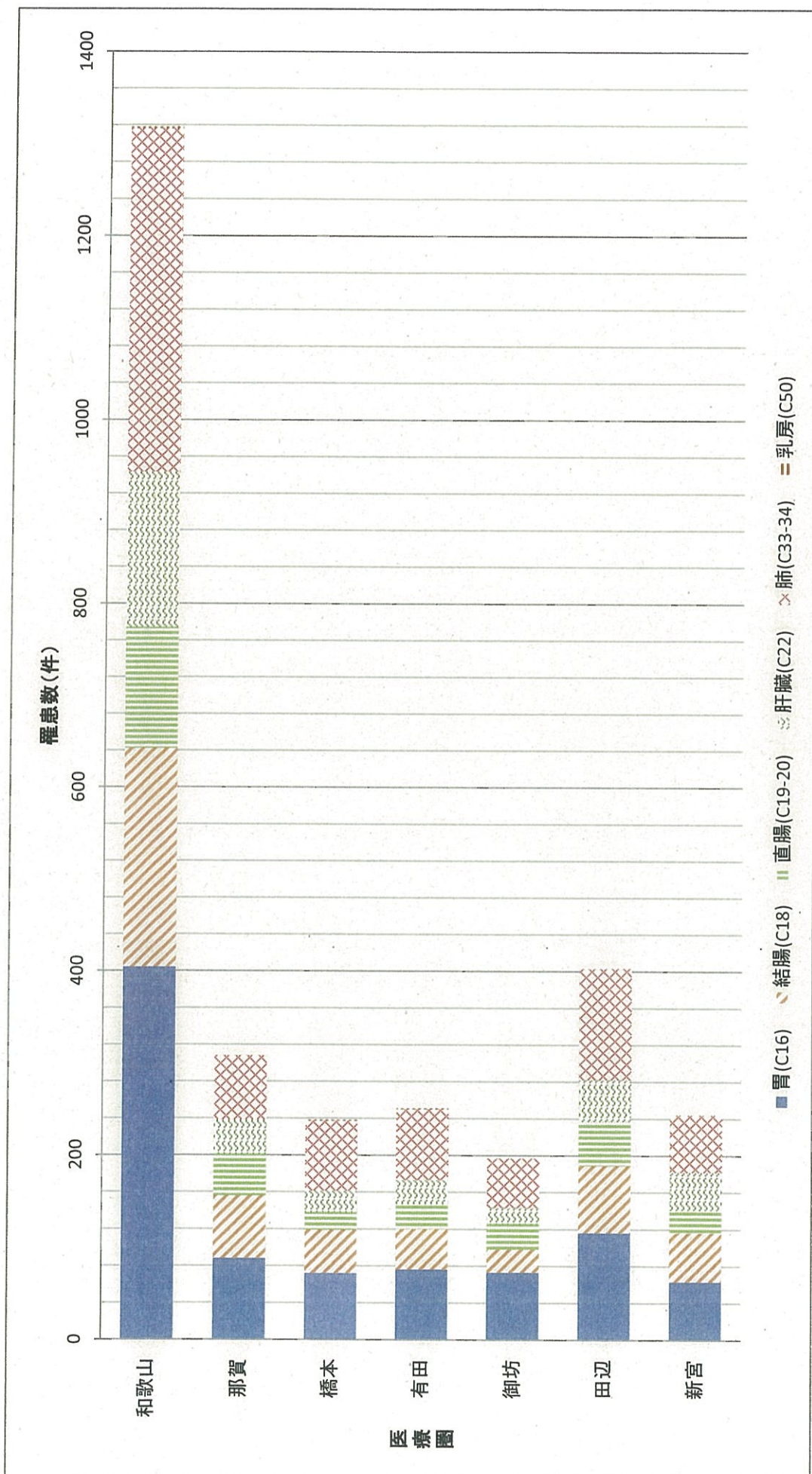


⑧ 子宮頸部

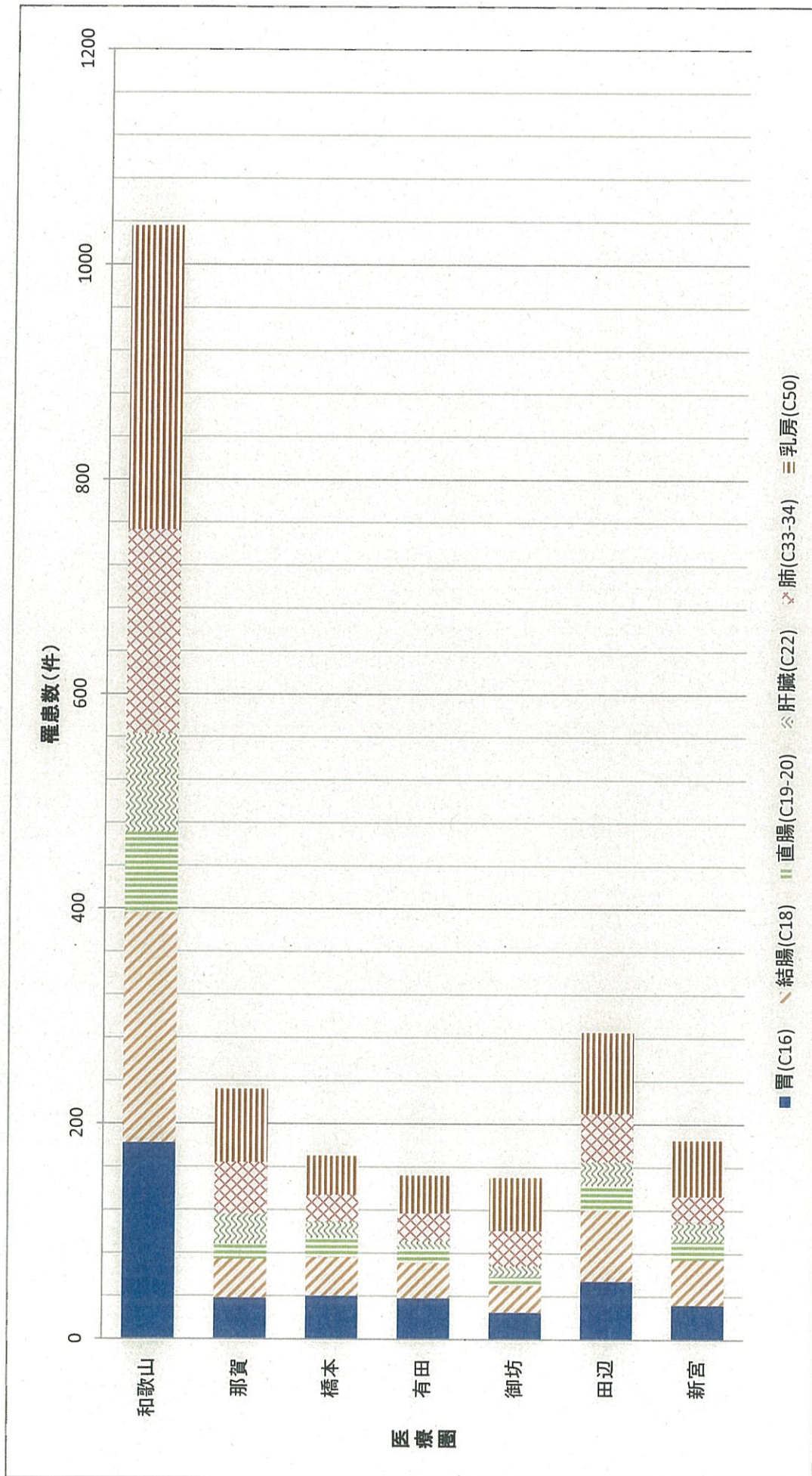


年齢階級別の死亡率では、男女とも55歳から60歳以上で率が高くなっている。しかし、女性の乳がん、子宮頸がんは30歳代から大きく上昇している。

医療圏別罹患数：部位別、性別（主要部位）
 罹患数（医療圏別・男性） ※標準集計表の付表4-A、4-Bから作成



罹患者数(医療圏別・女性) ※標準集計表の付表4-A、4-Bから作成



罹患者数(医療圏別・男女計) ※標準集計表の付表4-A、4-Bから作成

